

令和7年度
研究報告集123号



桐生市立教育研究所

はじめに

子供たちに「たくましく生きる力をはぐくむこと」を目指し、市内各園、各校では、現行教育要領・学習指導要領の理念実現に向けた教育活動の推進に力を注いでいただいていることと思います。

さて、今年度、本研究所では、「桐生市教育委員会 教育行政方針」に示された重点施策及び喫緊の課題等を踏まえて3つの課題研究班を組織し、それぞれが実践的な研究に取り組んできました。

学力向上班では、小中学校間のつながりに視点をあてた言語活動のある単元づくり、授業づくりを研究し、児童・生徒が主体的にコミュニケーションを図る資質、能力の育成を目指した研究することができました。

子ども主体の学び研究班では、主体的に学び自律した学習者を目指す児童生徒を育成するために、自身の学びを実感できるような活動や場の設定、振り返りの方法を工夫、適切な対話・交流活動や自己決定・試行錯誤の場面を設定するなどの魅力ある単元構想を研究していくことをねらいとした研究することができました。

ICT機器活用研究班では、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、授業におけるICT機器の効果的な活用方法を検討・実践・情報発信することは、ICT機器の効果的な活用を推進する上で効果があったか、その有用性を明らかにした研究をすることができました。

また、教育相談に係る教職員の資質向上も重要な課題であると考え、本年度も、教育相談研究員3名を委嘱し、指導者・リーダーの育成を目指しました。さらに、教育相談研修講座では、「教育相談技術認定初級取得」・「教育相談技術認定中級取得」を目指し、教育相談の理論や技術の習得、事例研究など、教育現場での指導に役立つ研修を行ってきました。

研究員の皆様には、通常の勤務の中で熱心に研究を進め、その成果を報告集としてまとめていただき、大変御苦勞様でした。

結びに、この報告集を各園・各校、関係諸機関で御活用いただき、子供たちへの教育の向上に役立てていただければ幸いです。研究にあたり御指導をいただきました指導助言の先生方に心より感謝申し上げますとともに、研究員の派遣並びに研究の推進に様々な形で御支援いただいた園長先生、校長先生をはじめとする諸先生方に厚く御礼申し上げます。

令和8年3月

桐生市立教育研究所
所長 須藤 英隆

令和7年度 桐生市立教育研究所研究員・指導者名簿

1 課題研究員

区分	班名	No	氏名	所属	備考
小・中学校	学力向上班	1	井野岡 凌	梅田南小学校	
		2	八木 朋子	広沢中学校	
		3	小林 涼弥	相生中学校	
小・中学校	子どもが主体の学び研究班	1	野村 直子	東小学校	
		2	齊藤 大樹	川内小学校	
		3	飯島 翔太	黒保根学園	
	ICT機器活用研究班	1	樋口連太郎	境野小学校	
		2	松田 仁	菱小学校	
		3	曾根 和樹	清流中学校	

2 教育相談研究員

No	氏名	所属	備考
1	星野 秀美	相生小学校	群教連教育相談技術認定中級
2	關 百合香	境野小学校	群教連教育相談技術認定中級
3	荻野 悦子	川内中学校	群教連教育相談技術認定中級

3 課題研究指導者

班名	指導者氏名等	指導者(所員)氏名
学力向上班	/	福田 守宏 指導主事
子どもが主体の学び研究班	/	金谷 直敏 指導主事
ICT機器活用研究班	/	荻野 貴法 指導主事
	/	吉場ゆきの 指導主事

令和7年度 教育研究所 課題研究日一覧

回数	月	日	曜	開始時間	内容	実施の形態
1	5	13	火	15:30	合同入所式 オリエンテーション	○
2		20	火		通常研究	▲
3		27	火	15:30	通常研究	○
4	6	3	火	14:00	研究報告会(20分×3班=60分予定) *各班の発表は、質疑応答を含める	○
5		24	火	15:30	通常研究	○
6	7	1	火	15:30	主題検討会(全体協議)	○
7		22	火	13:30	通常研究 (*班ごとに夏季休業中の別日に振り替えてもよい)	○
8	8	5	火	09:00	長期研修員実践研修講座、通常研究	○
9		26	火		通常研究	▲
10	9	2	火		通常研究	▲
11		9	火	15:30	通常研究	○
12		30	火	15:30	通常研究	○
13	10	7	火	15:30	中間検討会(班別協議)	○
14	11	4	火		通常研究	▲
15		11	火	15:30	通常研究	○
16		25	火	15:30	通常研究	○
17	1	13	火		通常研究	▲
18		20	火	15:30	草案検討会(班別協議)	○
19		27	火	15:30	通常研究、研究報告集原稿提出(最終締切は2月6日まで)	○
20	2	17	火	16:00	研究員合同修了式(課題研究員、教育相談研究員)	○

(記号) ○…研究所にて実施 ▲…自校・自園で実施

(留意事項)

- ①研究日は、年間20日とする。ただし、原則5日を自校・自園での研究日とし、研究所への来所を求めない。
- ②自校・自園での研究日は、研究の進捗状況に応じて研究所等へ来所し、研究を推進することもあり得る。
- ③6月3日実施予定の研究報告会では、令和6年度の3つの研究班全てが研究内容の報告を行う。
- ④8月5日実施予定の長期研修員実践研修講座は、60分程度の内容とし、終了後通常研究の時間を90分程度確保する。

学力向上班テーマ（研究主題）児童生徒の学習意欲を高める 外国語科の単元構想

－伝え合う喜びを実感できる言語活動を通して－

桐生市立梅田南小学校 井野岡 凌
桐生市立広沢中学校 八木 朋子
桐生市立相生中学校 小林 涼弥

1 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説（外国語編）の改訂の趣旨の中で、中学校における授業での教師の英語使用や生徒の英語による言語活動の割合が改善されている一方で、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取り組みや、「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分でないなど、複数の領域を統合した言語活動の不十分さに課題があることが指摘されている。

今回の改訂では、外国語による5領域の言語活動を通して、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を更に育成することを目指している。

また、言語活動を行う際の配慮事項として、小学校で扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ることが記されている。

これらのことから、校種間の円滑な接続を図るために、小学校からの外国語を使用した言語活動の積み重ねが求められている。

「はばたく群馬の指導プランⅡ」（群馬県教育委員会，2019）は、外国語の単元において「必要感をもって思いや考えを伝え合う活動」を核とすることを求めており、学習場面にICTを活用したり、ペアやグループでの活動を取り入れたりすることで、児童生徒にとって意味のある発話の場を多く生み出すことが重要であるとされている。また「令和7年度 学校教育の指針」（群馬県教育委員会，2025）は、目的、場面、状況等を明確にした言語活動を設定し、児童生徒が活動を通して達成感をもてるよう

にし、その学びを振り返ることで学習意欲を高めていくことが大切だと述べている。どちらも、言語活動は単なる言語材料を理解したり練習したりする活動ではなく、自分の思いや考えを伝える機会として重視されている。自分の言葉が相手に伝わったという実感をもつことで、児童生徒は達成感を得たり、自信を高めたりすることができ、そのことが学びに向かう意欲にもつながっていくと考えられる。

桐生市全体の課題として、英語教育実施状況調査等の結果から、コロナ禍の影響を受け著しく減少してしまった対話的な言語活動の時間が未だに少ない傾向にあることが明らかになった。また、研究員の所属校では、教師の授業内の英語の発話量にも課題があり、教師自身が意識して授業内で生徒が英語を使用する必然性を確保する必要性があると考えられる。

上記の内容を踏まえ、学力向上班では、児童生徒が「伝えたい」という気持ちを高められ、伝え合う喜びを実感できるような目的や場面、状況等を明確にした言語活動を設定し、「自分の思いや考えを誰に、どのように伝えたいのか」「何のために伝えたいのか」「伝えるためにはどんな表現が必要なのか」という相手意識や目的意識を大切にした単元構想が必要であると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

児童生徒が英語で「伝えたい」という気持ちを段階的に高められる目的や場面、状況等を設定した言語活動のある、外国語科

の単元計画の作成や一単位授業の指導方法について研究する。

3 研究の見通し

児童生徒が言語活動の場面において、英語で伝え合えた喜びや達成感を得られることを大切に単元構想をする。また、学習に関するアンケートを実施するとともに、振り返りの記述から児童生徒の変容を見取り、本研究の手立てが有効であったか検証する。

4 研究の内容と方法

(1) 研究計画

一学期	○研究主題・副主題の検討 ○主題設定の理由の検討 ○主題検討会（全体協議）
二学期	○アンケートの作成 ○中間検討会 ○研究のねらい・見通し・研究・計画の検討 ○指導案の検討 ○授業実践及び授業研究 ○アンケートの実施
三学期	○草案検討会（班別協議） ○研究報告原稿の作成 ○研究報告原稿のまとめ

(2) 基本的な考え方

①「学習意欲を高める」とは

児童生徒自身が興味を持って取り組める目的や場面、状況等を明確にした単元の課題を設定し、「英語を使って伝えたい」という意欲を高める工夫をする。

学習した表現を、授業内だけでなく、日常生活等の場面でも使おうとする態度を育成する。

②「伝え合う喜びが実感できる言語活動」とは

英語を使用する必然性のある場面設定で、その単元での新出表現だけにとどまらず、既習表現を用いて自分の思いや考えを伝えられたという達成感を得ること

のできる活動。

児童生徒自身が、「自分の思いや考えを伝えるためには、こういう表現が必要だ」と感じながら学習を積み重ねていけるような単元構想を工夫し、必要感をもって英語学習に取り組めるようにする。

(3) 手立て

- ① 英語を使う必然性と喜びを実感できる学習場面の設定
 - ア 単元の課題や「誰に・何を・どのように」伝えるかを明確にする。
 - イ 身近な題材や関心のあるテーマを扱い、自分の言葉が相手に伝わったと実感できる場面を設定する。
 - ウ 自分の思いや考えを伝え合う活動に繰り返し取り組ませることで、「伝わった」「もっと伝えたい」という意欲を高める。
- ② 単元を通じた学習の積み重ねを重視する工夫
 - ア 一単位時間の学習の積み重ねが単元末の言語活動につながるようにする。
 - イ 既習表現や新出表現を繰り返し活用し、少しずつ表現の幅を広げる。
 - ウ データ収集、整理、練習、改善、発表・やり取り、振り返りといった一連の学びを通じて、自分の成長を実感できるようにする。
- ③ 協働的・対話的に学び合う活動の工夫
 - ア ペアやグループで互いの表現を聞き合い、よい点や改善点を共有する機会を設ける。
 - イ ALT や教師の助言を取り入れて、自分の表現をよりよくする経験を積ませる。
 - ウ ペアやALT とのやり取りの中で互いの表現を共有し、よいモデルを取り入れて自分の発表を改善しようとする活動を設定する。

5 研究の実践

実践1 相生中学校 教諭 小林 涼弥

(1) 実践内容

① 単元

Unit6 How can we make a good presentation?

② ねらい

ALT に行きたいと思ってもらうために、おすすめの観光地の魅力や特徴を比べながら紹介する。

③ 単元計画

時	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> JTE と ALT のやり取りを聞き、単元の課題を把握し、既習表現を使ってペアで桐生市の紹介をし合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【単元の課題】 ALT が行きたくなるようなおすすめの観光地を紹介しよう。</p> </div>
2	<ul style="list-style-type: none"> 桐生市や群馬県内の観光地や建物を比べて紹介する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 群馬の観光地のデータをもとに、「どちらがより有名か」「どれが一番人気か」を理由とともに説明する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 p. 72, 73 の本文の内容を捉え、新出言語材料の用法を理解する。
5	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県のお土産を比べて、どれが一番おすすめか伝え合う。
6	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 p. 74, 75 の本文の内容を捉え、新出言語材料の用法を理解する。
7	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県の観光地の特徴を比べるクイズを作り、出題し合う。
8	<ul style="list-style-type: none"> ALT の好みを聞き、紹介したい観光地について必要な情報を集めて整理し、メモを作成する。
9 10	<ul style="list-style-type: none"> ALT に行きたいと思わせるためにはどうしたら良いか考え、タブレット端末を活用しておすすめの観光地を紹介するスライド

	を作成し、紹介活動の練習をする。
11	<ul style="list-style-type: none"> おすすめの観光地について、ALT が行きたくなるようなおすすめの観光地を紹介する。
12	<ul style="list-style-type: none"> おすすめの観光地について、前時に紹介した内容をもとにまとめる。

④ 研究主題に関わる手立て

学習意欲を高めるための手立てとして、桐生市や群馬県の観光地という身近な題材を扱い、「ALT に魅力を伝える」という明確な目的を示すことで、英語を使う必然性を実感できるようにする。比較や理由付けの活動を段階的に積み重ね、学習内容が単元末の言語活動へ確実につながる見通しをもたせることで、主体的に英語を使おうとする意欲を高める。

本単元では「理解→活用→発信」の流れを重視し、表現の学習が実際の言語使用へ結び付く構成としている。繰り返し使う場面を設けることで、新しく学んだ表現が自然に発信へつながるようにしている。また、生徒それぞれが自分の習熟度に応じて、既習表現を主体的に選んで使えるように工夫し、自分に合った伝え方で発信できるようにする。

伝え合う喜びを実感できるように、紹介活動やクイズ、ALT への発信など、相手意識を大切に言語活動を多く取り入れている。特に、ALT の好みに合わせて観光地を選び、行きたくなるよう工夫して紹介する場面では、自分の英語が相手に伝わる実感を得やすい。こうした協働的・対話的な活動を通して、生徒が伝え合う喜びを実感できるようにする。

(2) 成果と課題

① 英語を使う必然性と喜びを実感できる学習場面の設定

ALT を実際の聞き手とした紹介活動を設定したことで、生徒は「誰に、何を」伝えるかを意識しながら英語を用いる姿が見られた。振り返りシートには、「ALT がうな

ずいてくれて伝わったと感じた」「行きたいと言ってもらえてうれしかった」「相手の好みに合わせて紹介するのが楽しかった」などの記述があり、自分の思いや考えが相手に届く経験が、生徒にとって喜びとなっていたことが分かる。このような活動は、生徒が英語を使う必然性を実感できる学習場面となった。

一方で、「何を言えばよいか迷った」「伝えたいことがあるのに英語が出てこなかった」といった声もあり、必然性は感じていても表現の選択に不安をもつ生徒がいた。今後は、目的に合わせた表現の選択肢を分かりやすく示すなど、安心して英語を使える環境づくりが課題となる。

② 単元を通した学習の積み重ねを重視する工夫

比較や理由付けなどの表現を複数の時間で繰り返し使い、学習が自然に積み重なっていくように構成した。これらの表現が単元末の言語活動である観光地紹介にそのまま生かせる流れにしたことで、生徒は毎時間の学習が次につながることを実感していた。振り返りには、「前にやった表現をそのまま使えた」「自分にも使える英語があって安心した」など、積み重ねを実感する記述が見られ、見通しをもった学習が意欲の維持・向上につながったことが分かる。

一方で、複数の表現から適切なものを選んだり、内容を整理したりする段階でつまづく生徒もおり、「言いたいことが多くてまとめにくかった」「どの表現を使えばよいか迷った」といった声もあった。今後は、生徒が単元末の言語活動に向けて見通しをもちながら学習を積み重ねられるよう、毎時間の学習が何につながるのかをより明確に示していく工夫が必要である。

③ 協働的・対話的に学び合う活動の工夫

ALT との紹介活動では、ただ一方的に発信するのではなく、相手の反応を見ながら内容を調整したり、友達同士で「どこが分かりやすいか」を助言し合ったりする姿が見られ、協働的な学びが成立していた。振り返りにも、「友達の説明を聞いて、自分

もこう言えばいいと気づいた」「ペアで練習すると落ち着いて話せた」など、やり取りを通して気づきが生まれていることが示されていた。

一方で、「相手に合わせて言い換えるのがむずかしい」「質問されたときに考える時間がほしい」といった声もあり、対話的に学ぶ際の負担も見られた。今後は、やり取りの流れや簡単な返し方の例を示すなど、対話の土台を支える手立てを工夫し、安心して学び合える活動へとつなげていく必要がある。

実践2 広沢中学校 教諭 八木 朋子

(1) 実践内容

① 単元

Program6 The Way to School

② ねらい

ALT が興味を持っている人物について知ってもらうために、好きなキャラクターや有名人を紹介し、その人について質問をやり取りする。

③ 単元計画

時	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ALT Day で広沢中に来る予定の先生たちからの動画を見て、課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【単元の課題】 ALT Day で、ALT の先生たちが興味を持っている人物についてもっと知ってもらうために、その人物についてより詳しく伝え合おう。</p> </div>
2	<ul style="list-style-type: none"> 人称代名詞（目的格）の用法を捉え、紹介したい人物について紹介する活動を行う。
3	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 why と because の用法を捉え、紹介したい人物について質問をし合う。
4	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループで、相手の紹介した人物についての質問をし合う。

5	・ALT Day で、紹介したい人物についてグループで情報をやり取りする。
6	・紹介したことを Padlet に投稿し、ALT からリフレクションをもらうことで、単元の振り返りをする。

④ 研究主題に関わる手立て

前単元で作成した、自分の好きな人物についての紹介ポスターを、ALT Day で来校予定の ALT に見せて、その ALT が興味を持ったポスターを描いた生徒に向けて、「もっと知りたい」という内容のビデオレターを作成してもらい、導入の部分で生徒に見せた。人物について質問したいことに関しては、本単元で学習する内容にとどまらず、生徒が知りたい、聞きたいと思うことを聞けるように授業内で支援・指導した。単元を通して、「紹介活動」と「質問タイム」を繰り返し練習し、自分自身の課題を把握しながら、会話の中で使える表現を増やしていけるようにした。最終的に ALT から聞かれたことに答えたり、ALT から紹介された人物について知りたいことを聞いたりすることができるようにした。

(2) 成果と課題

① 英語を使う必然性と喜びを実感できる学習場面の設定

「ALT Day で来校する ALT が知りたがっていることを話す」という明確な目的と場面を設定したことにより、生徒が単元を通して、どんな話し方や応答の仕方をすれば相手にもっと伝わるかなど、相手意識をもちながら活動に取り組めた。また、ALT Day を通して、多くの生徒が「突然聞かれた質問にも答えられた」「たくさん話せてよかった」「伝えたかったことが伝わった」「次に機会があったら、もっとたくさんの人について紹介したい」などの感想を述べており、練習を積み重ねたことを実践で使えた喜びを実感できた生徒や、次の学習活動への意欲が高まった生徒が多かった。

発話の正確性には課題があり、話したことを書く活動などを通して正確性を高めよ

うとしたが、話し始めると単語しか言えない生徒や、語順が不正確になってしまう生徒も多くいたため、そういった生徒がより正確に自分の気持ちを伝えられるように適切な支援をする必要がある。また、「話す」「説明する」活動においては「こういうことが話したい」という意欲をもった生徒が多く見られるが、「やり取り」の場面では「こういうことが質問したい」という活発な発言が少なく、教師側から「こんなことが質問できるといいね」という提示が多くなってしまったため、今後、やり取りの場面でも生徒自身をもっと主体的な姿勢をもてるよう、学習場面の設定を工夫する必要がある。

② 単元を通した学習の積み重ねを重視する工夫

Program5 と Program6 の二つの単元を通して、ALT Day で行う活動と同じ活動を同じ順序で毎回繰り返し行わせたことで、本番でもスムーズに活動している生徒が多かった。英語に苦手意識をもっている生徒も、いくつかの同じ質問を毎回繰り返し練習し、本番で使うことができた。

数回繰り返せばやり取りできる生徒がほとんどだが、教師の支援なしに自ら質問を考えたり、増やそうとしたりする生徒は少ない。今後も学習の積み重ねを実感できる単元構想の工夫をして、さらに使える表現が増えているという実感を持たせたい。

③ 協働的・対話的に学び合う活動の工夫

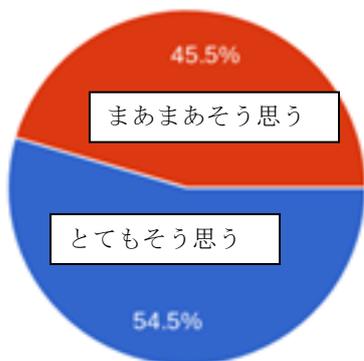
話し方のよい点などについて共有することでアイコンタクトやリアクションを意識し合うことができた。また、友達の質問を聞いて同じ表現を次の会話で使うことができる生徒も増えた。

授業では、活動の合間にたくさん質問ができていた生徒を手本としてクラスで共有するなどして使える表現を増やしていったことで、最初と最後の活動を比較して自らの変容を実感できるようにした。

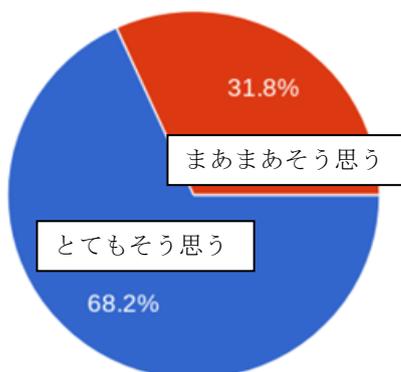
授業後アンケート結果

- ① 「今回の単元で学習したことを、今後、どのような場面で使いたいか」という質問に対する回答
- ・「ALT の先生と自分の推しとかと話すときに、Why do you〜の質問や Because を使いたい」
 - ・「ALT の先生とスポーツについて話す場面で、Does などを使って相手に質問したい」
 - ・「ALT にアーティストやキャラのよさを伝えるために使いたい」
 - ・「今の単元でやっていることでもなるべくたくさん使いたい」
 - ・「英語を話せる叔母に why で聞いてみたい質問がある」
- ② 「この単元を通して、「英語で思いや考えを伝える場面」で使える表現が増えたと感じますか?」という質問に関するアンケートに対する回答

グラフ1 Program5 終了時



グラフ2 Program6 終了時



実践3 梅田南小学校 教諭 井野岡 凌

(1) 実践内容

① 単元

Unit5 Let's go to the zoo.

② ねらい

オリジナルの町をたずねたり、案内したりする活動を通して、自分の住んでいる地域を ALT の先生に紹介できるようになる。

③ 単元計画

時	学習活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ・町の施設に関連する単語を学習するとともに、施設や道案内についてのやり取りから、具体的な情報を聞き取る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【単元の課題】オリジナルの町をたずねたり、案内したりする活動を通して、自分の住んでいる地域を ALT の先生に紹介できるようになろう。</p> </div>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・町の施設や場所、道案内についてのやり取りの表現に慣れ、単元末の言語活動への見通しをもつ。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・場所をたずねたり、道案内をしたりする。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・おすすめの施設について、友達と伝え合う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や場所、道案内についての表現を振り返り、オリジナルの町を決め、その町の紹介や道案内の内容を考える。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの町を道案内し合う。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT の先生に桐生市のおすすめの場所を紹介する。
8	<ul style="list-style-type: none"> 映像や音声を手がかりにして、日本に住む外国人やお好み焼きについて考え、日本と世界の文化に対する理解を深める。

④ 研究主題に関わる手立て

児童の英語でのコミュニケーションを促進し、伝え合う喜びを感じることができるよう、児童が紙とシールを使ってそれぞれオリジナルの町を設定した。

お互いの町を知るために、聞く側の児童には、道案内された場所にシールを貼る活動を設定した。話す側の児童は、聞く側の児童の指元を確認しながら、正しく伝えら

れていることを確認できるようにした。

話す側の児童には、相手に伝わりやすいように、話す速度や相手の動きを確認しながら話すこと、聞く側の児童には、必要に応じて聞き返しの表現を使うことを指導した。

(2) 成果と課題

① 英語を使う必然性と喜びを実感できる学習場面の設定

聞く側の児童が、聞き取った内容を出す姿を目の前で行うことで、話す側の児童も「相手に伝えられた」と即座に感じる事ができた。また、相手が間違えないように、英語を繰り返したり、ゆっくり話したりする工夫によって、「聞き取れた」と自信をもって活動を進める事ができたと考えられる。この一連の流れを繰り返し行ったことで、より「できた」と達成感を得られる学習場面であったと考えられる。

児童がさらに伝える喜びを実感できるように、やり取りをしている姿が見本となるペアの様子を、クラス全体で共有する時間を設けるとよい。児童がお互いに良さを見つけ合い、やり取りの質を上げていくことが求められる。

② 単元を通した学習の積み重ねを重視する工夫

本単元では、自分のオリジナルの町を案内する学習活動を通し、単元末の言語活動ではALTに桐生市のおすすめの場所を紹介する一連の流れを構想した。そのため、他の単元と比べると、建物の名前を意欲的に覚えようとする姿が見られた。おすすめの場所を紹介する授業では、We have a nice zoo.などの表現を用いて、自分たちが住んでいる地域について、積極的に伝えようとする姿が見られた。

小学5年生の段階では、英語で伝えられる表現が限られているため、3年次から始まる外国語活動から日常会話表現を系統的に指導していくとよいだろう。

③ 協働的・対話的に学び合う活動の工夫

今回の実践では、4×3のマスキにオリ

ジナルの町を作成し、ペアで質問をすることを通して、相手の町を完成させる活動をした。繰り返し相手に質問し、言語情報のみでやり取りをする必要性があった。

英語が得意な児童は、積極的に英語を伝えようとしたり、英語に苦手意識をもつ児童に対して、英語の読み方を教えたりする姿も見られた。また、聞き取る際に、相手の発言を繰り返し、発話内容を確認する姿が見られた。この姿は、事前に指導をしたものではなく、児童同士のやり取りの中で自然に発生したものである。

また、英語に苦手意識をもつ児童も、既習表現を見返し、自分の力で伝えようとする姿が見られた。英語でのやり取りを通して、伝え合う喜びを実感できる要素として、児童同士が安心して話せる雰囲気醸成が必要である。

6 研究のまとめ

(1) 成果

① 英語を使う必然性と喜びを実感できる学習場面の設定

児童生徒の振り返りやアンケートの結果から、児童生徒が英語を使う必然性を高めるためには、話す目的や場面が明確になっていることが求められる。指導をする英語表現や文法と、既習表現を組み合わせ、児童生徒にとって身近なテーマで学習場面を設定することで、児童生徒の、主体的に「伝えたい」という気持ちを高められた。

② 単元を通した学習の積み重ねを重視する工夫

今回の研究では、単元末の言語活動に表れてほしい児童生徒の姿をイメージしながら単元構想を考えた。班員が特に意識したことは、「児童生徒が学びやすい流れ」「習得すべき表現を繰り返し練習すること」である。この二つのことを意識して単元構想を練ることで、英語が得意な児童生徒は表現の幅を広げることができ、自分の思いや考えを伝えようとする場面が増えた。また、英語に苦手意識をもつ児童生徒が「自分にもできそう」と英語を話す意欲を高め、活

動を通して達成感を得る機会が増えた。
また、教師が授業中に英語で話す姿を手本として見せることで、児童生徒が「英語で話そう」という気持ちを高めることができた。

③ 協働的に学び合う活動の工夫

英語で話すことが「単なる言語の練習」とならないように、多くの人とやり取りをする場面を設定した。英語でやり取りをする中で、よい点や改善点を見つけたことで、英語で伝えようとする抵抗感を減らすことができた。

また、やり取りの姿が見本となるペアの様子を、クラス全体で共有する時間を設けることで、児童生徒同士で互いに学習意欲を高めるきっかけになると考えられる。児童生徒の実態や発達段階に応じて、計画的に協働的・対話的な学び合いの機会を設けられるとよいだろう。

(2) 課題

以上の実践を踏まえ、本研究を通して見えてきた今後の課題について、以下の観点から整理する。

① 相手意識を育成するための支援

本研究を通して、相手意識を大切にしたい言語活動が学習意欲の向上につながることを確認した。しかし、聞き手を想定した内容選択や言い方の工夫は児童生徒にとって難しく、教師の求める姿まで到達しない場面も見られた。今後は、発達段階に応じて相手意識を大切にするための支援を整理し、聞き手の情報提示やモデル例、観点の提示などを通して、どの児童生徒も目的に応じた伝え方を選択できるよう、どの段階で何をどのように指導するかを明確にしていく必要がある。

② 実態に応じた言語活動時の支援

児童生徒の習熟度や興味には差があり、学んだ表現を発信につなげる場面で難しさが見られた。特に、内容を選んだり話の流れを考えたり、複数の表現から適切なものを選んだりすることに負担を感じる児童生徒が多く、自己表現に差が生まれやすい。今後は、構成メモの例や表現の選択肢カー

ドなどを活用し、考える過程を支える支援を充実させることで、得意不得意に関わらず、どの児童生徒も参加しやすい言語活動を進めていく必要がある。

③ 単元構想の充実に向けた課題

単元全体を通して学びや経験が積み重なり、児童生徒がその過程で感じている喜びや手応えを学びとして自覚できるようにしていく必要がある。本実践では前向きな反応が多く見られた一方、自らの成長を十分に認知できていない生徒もいた。今後は、振り返りや教師の具体的なフィードバックを単元構想の中に位置づけ、毎時間の活動の目的を明確にすることで、すべての児童生徒が継続的な学びのつながりを実感できる単元づくりを目指していく。

7 終わりに

今年度の学力向上班では、児童生徒の学習意欲を高める言語活動及び単元構想の工夫について考え、研究や授業実践を行うことができた。授業を行う上で重点を置いたのは、単元を通じた言語活動によって児童生徒が少しずつ伝えられることを増やし、最終的に単元末の言語活動で言いたいことが伝わった喜びが実感できるような一貫性のある単元構想を行ったことである。文法や日本語訳の説明に終始することなく、児童生徒が必然性のある場面で英語を使い、教師自身も手本となって授業で英語の使用量を増やすことで、児童生徒自身が「自分の思いを英語で伝えたい」という意識を高めることができた。児童生徒が英語を使いながら自らの課題に気づき、お互いにアドバイスし合い、発話を改善していく姿が見られた。小学校では、様々な場面の英語に触れ、異なる文化をもつ相手に対して物事を伝える態度や表現の素地を育てるための授業が行われている。中学校では小学校の授業で培われた英語を話す時の「相手に伝わりやすい話し方」などの態度面を意識させる指導、具体的にはアイコンタクトや声の大きさなどを意識させる指導を継続して

いくことが重要であると考え。また、意欲を維持・向上できるよう、ALT を活用した必然性のある場面設定の工夫も効果的である。

主体的に学び自律した学習ができる児童生徒の育成

ー单元構想を工夫し、学びを実感できる振り返り活動を通してー

桐生市立東小学校 野村 直子
桐生市立黒保根学園 飯島 翔太
桐生市立川内小学校 齊藤 大樹

1 主題設定の理由

子どもたちは生まれながらにして、誰しもが「自分で考え、友達と話し合い、決定して、行動する力」を持っている。「第4期群馬県教育振興基本計画」では、「人が誰しも生まれつき持っている、自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力（エージェンシー）を発揮して、自らの意思と選択で自ら学びをつくり、実際の行動に移せるようになるような教育を目指すこと」を策定の趣旨とし、「自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う社会へ向けて一ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びを作り、行動し続ける『自律した学習者』の育成」を最上位目標に掲げている。

また、桐生市教育行政方針によると、「『確かな学力』を育む日常指導の充実」として、「ねばり強く学習に取り組み、自らの力を調整しようとする力の育成」を掲げている。また、「『主体的・対話的で深い学び』に向けた授業改善」として、「児童生徒主体の学びへの転換」を求めている。

以上のことから、前述した「自律した学習者」の育成を目指すためには、「児童生徒主体の学びへの転換」が非常に重要であると考えている。

しかし、一方で児童生徒が主役となる学びを実現できるような授業改善を理想に掲げながらも、教師主導の「教え込む」授業になってしまうこともある。そのような中で、本班では、児童生徒が主体となって学ぶことができるような授業づくりを目指していくために、「单元構想の工夫」「児童

生徒が自らの学びに確かな実感を得ることができるような振り返りの在り方」に重点を置くことが大切だと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

主体的に学び自律した学習者を目指す児童生徒を育成するために、自身の学びを実感できるような活動や場の設定、振り返りの方法を工夫した单元構想について研究する。

3 研究の見通し

单元構想において、対話・交流、自己決定、試行錯誤、振り返りなどの活動や場を意図的に設定する。授業での振り返りや单元終わりのアンケートの結果から児童生徒の変容を見取り、本研究の手立てが有効であったか検証する。

4 研究の内容と方法

(1) 研究計画

1 学期	<ul style="list-style-type: none">・研究主題、副主題の検討・主題設定の理由の検討・主題検討会（全体協議）・手立ての検討・单元、授業構想
2 学期	<ul style="list-style-type: none">・研究のねらい、見通し、研究計画の検討・指導案検討・児童生徒のアンケート、振り返りシートの検討・中間検討会・授業実践

	・成果と課題の検討
3学期	・草案検討会 ・研究報告原案の作成 ・研究報告原稿のまとめ

(2) 基本的な考え方

①「単元構想の工夫」について

児童生徒が自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出せるよう、児童生徒が課題を設定し問題を解決するまでの学びのストーリーを意識して、各単位時間をつなげる。その際、対話・交流、自己決定、試行錯誤、振り返りなどの活動の場を効果的に取り入れ、児童生徒が学びのストーリーを生み出したりつなげたりできるようにする。

②「振り返りの在り方」について

振り返りを重視することで、児童の学びの様子・学習の定着度合いの把握がしやすくなる。さらに、実態に応じた個別の指導の手立ての検討も行いやすくなる。どの児童生徒でも学習に対する振り返りが確実にできるよう、書き方モデルを提示したり、選択式による振り返りの形式を整えたりする。その際、単元全体を通して各単位時間の振り返りを見返すことができるよう、一覧化した形式による振り返りを行う。

①②を踏まえて、以下に述べる姿を「主体的に学ぶ児童生徒」とし、様々な手立てを講じていく。

- ・課題を自ら見つける。
- ・分からないことを自ら調べたり、学んだりする。
- ・分からないことを自ら質問する。
- ・自分なりの表現ができる。(発言・ノートなど)
- ・他者の意見を受けて、考えを修正したり、広げたりする。

(3) 手立て

3つの実践における手立ては以下のとおりである。

①各教科共通の手立て

ア 振り返り

- ・共通の視点を入れた振り返りの実施
- ・一覧化した形式の振り返りの実施

イ アンケート調査の実施

実践単元後のアンケート実施における児童生徒の実態、成果の把握

②国語科の手立て

- ・単元のはじめに単元計画を児童生徒と作成する。
- ・単元のゴールの形式を自己決定できるようなものとする。
- ・書き方見本の提示をする。
- ・学習の手助けとなる学習掲示物を作成する。
- ・充実した対話・交流活動を行う。

③算数科の手立て

- ・ペアトークやグループワーク等の意見交換の場を設定する。
- ・具体物を提示し、試行錯誤できるようにする。
- ・ヒントカードを作成し、児童に選択させる。

④保健体育科の手立て

- ・単元のはじめに単元計画を児童生徒と作成する。
- ・ICT機器を使用して、自身の活動の様子を蓄積、閲覧できるようにする。
- ・選択できる練習場所を設定する。
- ・個人課題を作成する。
- ・対話・交流の場面を設定する。

実践1 桐生市立東小学校

教諭 野村 直子

(1) 実践内容

単元名 4年算数

「面積」 (全10時)

ねらい

面積の比べ方を考え、面積の単位と求積公式について理解し、長方形や正方形の積を求めたり、複合図形の求積方法や面積の単位の相互の関係について考察したりすることができる。

時	学習活動	知	思	主
1	・直線比較など既習の比較方法を振り返り、花壇の広さを数で表す方法を考える。			
単元の課題 面積の比べ方を考え、面積の単位と求積公式について理解し、長方形や正方形の面積を求めたり、複合図形の求積公式や面積の単位の相互の関係について考察したりすることができる。				
2	・1cm ² の正方形の数を数えて面積を求める。			
3	・長方形と正方形の面積を計算で求める方法を理解し、それらを求積公式にまとめて適用する。			
4	・周りの長さが16cmの長方形の面積を求めて、分かることを話し合う。【対話活動】			
5	・複合図形の面積の求め方を考え、説明する。【対話活動】(本時)			
6	・面積の単位「m ² 」を知り、面積を求める。 ・新聞紙で1m ² を作り、体感する。【対話活動】			
7	・「m ² 」と「cm ² 」の関係を理解し、縦と横で単位の異なる面積を求める。 ・身の回りの物の面積を求める。【対話活動】			
8	・面積の単位「km ² 」を知り、面積を求める。 ・「km ² 」と「m ² 」の関係を理解する。			
9	・面積の単位「a」「ha」を知り、面積をa、haで表す。 ・面積の単位の関係を、正方形の1辺の長さに着目して整理する。			
10	・基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。			

(A) 単元計画

(2) 成果と課題

①共通の手立て

・振り返りについて

○振り返りを重視することで、児童が自身の学習を振り返り、できたことや分からなかったことを毎時間確認することができた。達成度をA B C Dで選択させることで、児童は単元全体の中でどこが難しいと感じたかが一目で分かったようだった。児童のアンケートからは「だんだん難しくなっていることがわかった。」「分からないときもあったけど、見てみるとできているところもある。」「わかるどころ、わからないところが自分の的にわかった。」また、担任は以後の学習でどこを復習し、どのように指導すると良いのかを考え、授業に生かすことができた。一覧化した振り返りシートは、自律した学習をする手立てとして効果的であったと考える。

●振り返りシートの記入欄に適用問題の答えを書く欄を設けたが、ノートに書いたことをシートに書くことで二重になってしまい、記述項目に時間がかけられないように感じた。振り返りシートの内容は、記入する時間の制約があるため、精選しなければならないと感じた。

4年生 算数 「面積」の振り返りシート

日付	めあて	まよめ問題 答え	A よくわかった B 思い出した C 半分くらいわかった D 全然わかってない	●わかったこと ●できなかったこと ●やってみたいこと	驚しかったこと
11/24	① 周りの長さ(4cm)を 全て表す。		B	正方形を(1cm)単位に してわかってきたこと を思い出してわかって きたこと。	
11/27	②		B	正方形の面積を求め る方法を思い出してわ かってきたこと。	
11/28	③ 面積を計算 で求める方法を 考える。	120/12=10 正方形	C	このように長方形、正方形 をわけることで面積 を求めることができる ことをわかった。	
12/1	④ 12の長さ(面積) の単位を計算 する。	12x9=108 長さ12cm	A	12x9=108 をわかってきたこと をわかった。	
12/1	⑤ 15の長さ(面積) の単位を計算 する。	15x12=180	A	15x12=180 をわかってきたこと をわかった。	

(B) 振り返りシート

・アンケートの結果について

アンケート結果	よくあてはまる			
	実施前	実施後	よくあてはまる	あてはまる
算数は好きか。	9	16	4	1
めあてを意識して学習しているか。	10	15	5	0
問題を解くときまず自分で考えるか。	17	13	0	0
分からない時、友達のことを聞いて納得してから、自分で考えて答えを出しているか。	13	14	3	0
間違いをやり直すことができているか。	13	15	2	0
めあてを振り返ってできたか考えているか。	7	6	14	3
今まで学んだことをいかそうと教科書やノートを見返しているか。	11	9	8	2

(C) アンケートの結果について

○実践前と比べ、全体的にどの項目でも「よくあてはまる」「あてはまる」に増加が見られた。特に、「算数が好きですか。」の項目で「よくあてはまる」に多く増加が見られた。単元の中でペア活動やグループワーク(対話・交流)を意識的に取り入れたり、具体物で試行錯誤しながら学習したりしたことで、多様な活動を通して「分

かった」経験が増えたからだと思われる。また、「その日のめあてをふりかえて、できたか考えていますか。」の項目では、実践前は「あまりあてはまらない」が一番多かったが、「あてはまる」に増加が見られた。一覧化した形式の振り返りを単元に導入したため、毎時間のめあてと学習のつながりが強く意識できたからではないかと思われる。

- 「算数が好きですか」の項目で「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」につけた児童の数は、実践前と実践後で変化はなかった。算数が好きではない児童に対しての手立てをアンケートや振り返りの記述したことを元に単元構想の時点で個別に考える必要があると感じた。

②各教科の手立て

算数科では、以下の手立てを用意した。

- ・ペアトークやグループワーク等の意見交換の場を設定する。
- ・具体物を提示し、試行錯誤できるようにする。
- ・ヒントカード作成し、児童に選択させる。

○ペアトークやグループワーク（対話・交流）を単元構想で計画し、学習の中で意図的に取り入れたところ、児童が多様な考え方や視点を交換し合う機会が増え、一人では気づけなかった着眼点を共有できた。グループでの話し合いを通じて何度も挑戦し、意見を出し合う姿から児童自身が学びの主役となり、「他者の意見を受けて、考えを修正したり、広げたりする」児童につながったと考える。

- ペアで伝え合う活動やグループワーク後の発表時、伝え方のお手本を教師もしくは上位児童が代表でできるようにすると低位の児童も

自信をもって伝えられた。

- 具体物を提示し、試行錯誤できるようにする手立てを行った。「面積」を図形だけでは実感として捉えられない児童の実態があったため、「 1cm^2 」で「 1m^2 」を測る活動や、体育館で様々なものをメジャーで測る活動を取り入れ、児童が試行錯誤しながらも感覚として「面積」を掴めるようにした。振り返りシートの記述から学習が進むにつれて理解が深まっていくように見られた。



(D) 具体物を作っている様子

- ヒントカードの手立てでは、第5時の授業において、黒板に掲示した「名称のヒントカード」（「縦切り」「横切り」等）によって、数種類あった「切る」考えが学級全体で一般化された。その後の学習でも児童が名称を使い、課題に取り組む様子が見られたことから、児童の理解の深まりに対して有効であったと考える。また、グループワークの際には、図形の他に「式だけが書かれたシート」を用意し、希望するグループに配付した。グループで色々意見しながらなんとか答えを出そうと試行錯誤する姿に加えて、上位の児童も相当悩んでいて深く思考する姿が見られた。

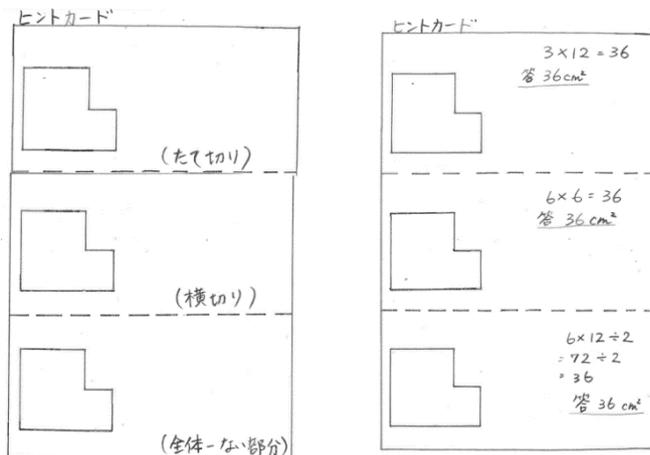
- ヒントカード（ワークシート）の図形をわざわざ定規ではかっている子がいた。児童に与えるヒントカードのヒントをどこまで書いておくかの精選をし、児童にとって

理解の手助けになるものにしなくてはならないと感じた。

った。それを踏まえた上で、授業者の「単元構想の工夫」をすることが非常に重要だと考えた。



(E) 黒板のヒントカードとグループで考えた面積の出し方



(F) (たて切り等) 名称のヒントカードと式だけ書いたヒントカード

- 算数科においては、毎時間解決すべき課題や学ぶべきことがあり、一つ一つ積み重ねながら、単元を学習していく必要がある。他教科に比べて、単元全体を通し児童自身が問題を解決するまでの学びのストーリーを生み出せるように支援することに、難しさを感じた。毎授業での「めあてと振り返り」の中で、主体的に学習したくなるような動機付けや発問を工夫したり、振り返りの中で児童から思いを引き出して、次時につなげていったりすることが大切になると思

算数科学習指導案

単元名「面積」【学指要領：A（6）ア（イ）、イ（ア）、B（4）ア（ア）、（イ）、イ（ア）（8）】

令和7年 12月 2日 1校時

4年1組 指導者 野村 直子

I 単元（題材）の構想

1 単元（題材）の目標及び児童の実態

	目標	児童の実態
知識及び技能	・面積の単位「 cm^2 」「 m^2 」「 km^2 」「 a 」「 ha 」とその関係や、長方形と正方形の求積公式について理解し、公式を用いて面積を求めることができる。	・3年生までに長さの単位「 cm 」「 mm 」「 m 」「 km 」と単位間の関係について学んでいる。
思考力、判断力、表現力等	・単位の考え方をを用いたり、図形の構成要素に着目したりして、面積の表し方や複合図形の求積方法、単位の関係について考え、説明することができる。	・長さ、かさ、重さなどの量の大きさ比べをする際、直接比較や間接比較、任意単位、普遍単位を用いた測定を学習してきた。広さについても直接比較や任意単位のその何個分と数値化する学習をしてきた。
学びに向かう力、人間性等	・面積を数値化して表すよさに気づき、生活や学習に生かそうとしたり、複合図形の面積の求め方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとする。	・ほとんどの児童が意欲をもって算数科の学習問題に取り組み、生活や学習に生かそうとする。しかし、言葉で説明することにやや難しさを感じていて、深い理解には至っていない様子がある。

2 評価規準

知識・技能	・面積の単位「 cm^2 」「 m^2 」「 km^2 」「 a 」「 ha 」とその関係や、長方形と正方形の求積公式について理解し、公式を用いて面積を求めている。
思考・判断・表現	・単位の考え方をを用いたり、図形の構成要素に着目したりして、面積の表し方や複合図形の求積方法、単位の関係について考え、説明している。
主体的に学習に取り組む態度	・面積を数値化して表すよさに気づき、生活や学習に生かそうとし、複合図形の面積の求め方について、多面的に考え、よりよい方法を追求しようとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画（全10時間：本時第5時）※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	・直接比較など既習の比較方法を振り返り、花壇の広さを数で表す方法を考える。			○
単元の課題 面積の比べ方を考え、面積の単位と求積公式について理解し、長方形や正方形の面積を求めたり、複合図形の求積公式や面積の単位の相互の関係について考察したりすることができる。				
2	・ 1cm^2 の正方形の数を数えて面積を求める。	○		
3	・長方形と正方形の面積を計算で求める方法を理解し、それらを求積公式にまとめて適用する。	○		
4	・周りの長さが 16cm の長方形の面積を求めて、分かることを話し合う。【対話活動】		○	
5	・複合図形の面積の求め方を考え、説明する。【対話活動】（本時）		●	
6	・面積の単位「 m^2 」を知り、面積を求める。 ・新聞紙で 1m^2 を作り、体感する。【対話活動】	○		
7	・「 m^2 」と「 cm^2 」の関係を理解し、縦と横で単位の異なる面積を求める。 ・身の回りの物の面積を求める。【対話活動】	○		
8	・面積の単位「 km^2 」を知り、面積を求める。 ・「 km^2 」と「 m^2 」の関係を理解する。	○		
9	・面積の単位「 a 」「 ha 」を知り、面積を a 、 ha で表す。 ・面積の単位の関係を、正方形の1辺の長さに着目して整理する。			●
10	・基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。	●		

*活用するコンテンツ等：デジタル教科書

II 本時の学習 (5/10)

1 ねらい

ワークシートに式や図を書いて共有したり説明したりすることを通して、複合図形の面積を求める方法を考えることができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童の意識〔S〕</p>	<p>○指導上の留意点及び支援 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><めあて> でこぼこの図形の面積の求め方をたくさん見つけ、公式や図を使って考え、説明しよう。</p> </div> <p>S：長方形の面積の求め方を使って、どうやって面積をだそうかな。</p>	<p>○既習の求積公式に当てはまらないため工夫が必要であることに気づけるよう、掲示物を用いて今までの学習を振り返る。</p> <p>○3種類の求め方を早く見つける児童がいると考え、求め方が6通りあることを伝え、ワークシートに記入するよう促す。</p>
<p>2 解決の見通しをもつ。(3分)</p> <p>3 自分の考えをもち、ペアに説明する。(5分)</p> <p>S：縦に一本線を入れれば、長方形2つに分けられる。それぞれの面積の和が、答えだ。</p> <p>S：大きな長方形から、へこんでいる部分の面積を引けば、面積の答えになる。</p> <p>S：ペアに自分の考えをどう説明しようかな。図を指さしながら説明してみよう。</p>	<p>○解決の見通しをもてるよう、長方形や正方形が組み合わされた形であることを共有しておく。</p> <p>○6通りの考えが記入できるワークシートを用意して、補助線を入れたり、式を書いたりできるようにする。</p> <p>○自分の考えがまとまらない児童には、ヒントカードを用意する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目（思考・判断・表現） ワークシートの記述内容から、「複合図形の面積を工夫して求める方法について考え説明している。」姿を評価する。</p> </div>
<p>4 グループで6通りの求め方を考える。(10分)</p> <p>S：こんな考え方もあったのだな。</p> <p>S：まだ、他にも考えられるのかやってみよう。</p> <p>5 全体で共有する。(10分)</p> <p>S：みんなに、グループの考えを聞いてもらおう。</p> <p>S：自分も同じように考えていた。</p> <p>S：そんな考え方があったのか。やってみたいな。</p>	<p>○ワークシートに書いた式や図を見せ、自分の考えを発表したり、友だちの考えを聞いたりしてワークシートに記入するよう促す。</p> <p>○「切って移動する」「倍にする」などヒントカードを用意して、提示する。</p> <p>○難しい求め方が出ない場合は、先に式を提示して、そこからどう求めたのか考えさせる。</p> <p>○複数の求め方を思いついたグループには、大きなワークシートに書かせて、全体で発表せざるようにする。</p> <p>○発表の際には（書く、説明、指す）役割分担をさせる。</p>
<p>6 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容を振り返る(5分)。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><まとめ> (線を引いたり、おぎなったり、移動したりすれば、でこぼこの面積を求めることができる。)</p> </div> <p>7 学習内容の適用問題に取り組む。(7分)</p> <p>S：分けて動かしてみよう。</p> <p>S：大きな長方形の面積から引いてみよう。</p>	<p>○学習の要点がまとめられるよう、何の公式を使ってどのように（横切り・縦切り等）で面積を求めたのか問いかける。</p> <p>○適用問題は、難易度の違うものを選択できるようにして、それぞれの児童に達成感がもてるようにする。</p> <p>○適用問題は、どの方法で解くのか決めさせる。</p> <p>○ノートに適用問題を解いた後、振り返りシートに答えと振り返りを記入させる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><振り返り> S：友達のを考え方を聞いて、色々な面積の求め方が分かった。大きな長方形から引いて求めるやり方を次はやってみたい。</p> </div>	

実践2 桐生市立黒保根学園

教諭 飯島 翔太

(1) 実践内容

単元名 789年生保健体育
「球技 サッカー」 (全8時)
ねらい

パスやドリブルなどの基本を身に付け、仲間と連携した動きでゲームをしよう。

3 指導及び評価、ICT活用の計画 (全8時間・本時第6時)

時	学習活動	知	技	思	態
1	・サッカーについて学び、授業のルールや進め方を確認する。(a) (b)	①			
2	・試しのゲームを行い、単元の課題を前記する。(a) (b) ●単元の課題 チームの作戦を立て、仲間と協力してゲームをしよう。				③
3	・基本的なボール操作の技能を身に付ける。(a) (b) (c)	①	①		
4	・空間に走りこむ動きを身に付ける。(a) (b) (c)	②	②		
5	・ミニゲームを通してボール操作と空間に走りこむ動きの技能を高める。(a) (b) (c)			②	②
6	・課題を選択し、仲間と意見交流しながら、解決に向けて練習計画を立てる。(a) (b) (d)			①	①
7	・自分のチームを分析し、まとめのゲームに向けて作戦を立てる。(a) (b)				③
8	・まとめのゲームをし、単元を振り返り、自己評価する。(a) (b)				③
					総合的評価

(A) 単元計画

(2) 成果と課題

①共通の手立て

・振り返り

はばたく群馬の指導プランIIでの振り返りの内容「何を学んだか」「どのように学んだか」を意識した振り返りを行った。

○共通の視点を入れた振り返りを実施したことで、明確に書く生徒が増加した。一方で、「○○ができた。嬉しい。」など、抽象的な内容で済ませてしまう生徒もいた。そこで、入力内容の項目を詳細化して、項目ごとに振り返りを入力させた。

- ①「わかったこと、できるようになったこと、まだできないこと」
- ②「どのように解決したのか、どうしたらできたのか」
- ③「次がんばりたいこと、目標など」

○選択式や、項目に分けたことで本時の学びを十分に振り返ることができ、アンケートの結果からも「達成感」や「次への目標」をもつきっかけになったと考える。

●振り返りを重視したことで、共有

する時間が十分に確保できなかった。準備→活動→片付け→振り返りと生徒が活動していくと、運動時間の確保との兼ね合いが難しいと感じる場面があった。

振り返りのポイント これを意識して書こう!	振り返りの例
○わかったこと、気付いたこと	前回までは〇〇だった。今回の授業で△△と△△が大切だとわかった。次回は△△できるようにしたい。
○できるようになったこと、まだできないこと	
○どのように解決したのか、どうしたらできたのか	
今日の振り返り	先生のコメント
今日はあまり、うまくできなかった。もう少しできるように頑張っていきたい。100がもう少しできる気がするので次のときアドバイスを買いつけながら頑張りたいと思います。	空中姿勢への意識がとてもしっかりと高くあげられていたので、助走を生かした踏切で高さを出している。

(B) 振り返りシート改善前

<今日の振り返り> 3つの項目に分けて書きましょう。 すべて埋められるように。	先生のコメント
○わかったこと、できるようになったこと、まだできないこと ちょっとしたミニゲームをして、少しずつだけパスができるようになってきた気がした。	試合になると情報が増えてきて、判断する、プレーする、声掛けするなどやるべきが増えるから難しいね。少しずつ慣れていきましょう。
○どのように解決したのか、どうしたらできたのか あまり相手がいないところの味方のところに、パスをすることが大切だった。	
○次がんばりたいこと、目標など もっと自分でパスをして、パスをされたら、ゴールに入れたり、他の味方にパスをしつづけることをもっと頑張っていきたい	

(C) 振り返りシート改善後

・アンケート結果について

- アンケートを実施することで、生徒の実態把握として活用できた。授業前後の比較では、肯定的な回答をする生徒がわずかだが増加した。
- 準備した手立てが生徒にとって効果的だったのかを生徒目線で評価してもらうことができ、教師の授業改善につながられた。特に、「対話・交流」「自己決定」「振り返り」に関する項目のポイントが高かった。

アンケート結果(サッカー) 1～5の尺度で調査(5が最も肯定的な回答)						
質問内容	1	2	3	4	5	
体育は好きか。	前 0%	12.5%	0%	25%	62.5%	
サッカーは好きか。	前 0%	0%	37.5%	12.5%	50%	
サッカーは好きになったか。	後 0%	0%	25%	0%	75%	
苦手なことにも挑戦しようという気持ちはあるか。	前 0%	0%	12.5%	37.5%	50%	
熱心に運動や学習に取り組めたか。	後 0%	0%	12.5%	25%	62.5%	
仲間と協力することにどれくらい前向きか。	前 0%	0%	12.5%	50%	37.5%	
仲間とチームで協力して活動できたか。	後 0%	0%	0%	37.5%	62.5%	
授業で達成感や満足感を感じることができたか。	後 0%	0%	12.5%	12.5%	75%	
振り返りをするのは自分の達成感や次の目標をつかむきっかけになったか。	後 0%	0%	0%	0%	100%	
授業を進めるにあたって、達成感を感じたり意欲的に取り組むきっかけとなった活動は。(複数回答)	後	お手本の動画を見たこと	動画を撮影して振り返ったこと	友達と話し合ったこと	自分にあった練習方法を選んだこと	振り返りで自分の課題や目標をもつ時間をとったこと
	後	12.5%	37.5%	100%	75%	62.5%

(D) アンケート結果

②各教科の手立て

保健体育科では、以下の手立てを用意した。

- ・単元のはじめに単元計画を生徒と作成する。
- ・ICT 機器を使用して、自身の活動の記録を蓄積、閲覧できるようにする。
- ・選択できる練習場所を設定する。
- ・個人課題を作成する。
- ・対話交流の場面を設定する。

○単元計画を作成したことで、生徒自身が本時や次時の活動への見通しをもつことができるようになった。また、自分たちで決めたからこそその学習への意欲を感じることができた。作成したものを常に見られるようにしておき、毎回の授業で単元全体を見通した中で、本時がどの位置づけにあるのかを確認することで、単元を通した学習を意識づけることができた。

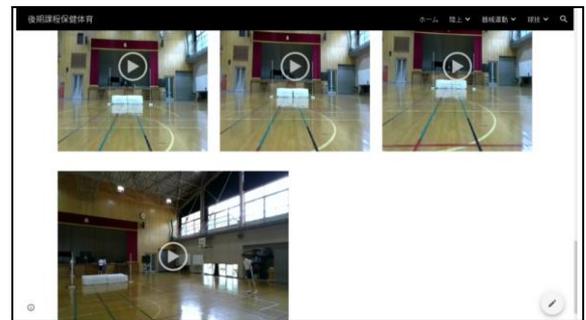


(E) 単元について確認できるサイト

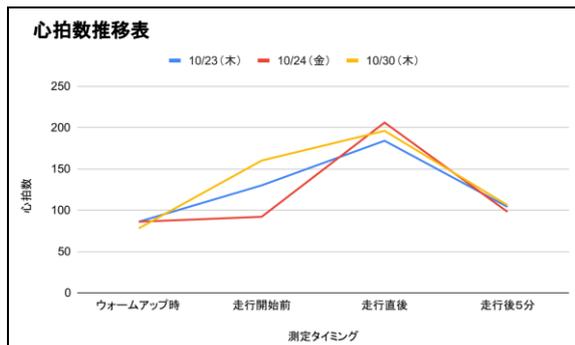
○ICT 機器を使用して、振り返り、資料の配付や提示、動画撮影を行った。振り返りをタブレット内で行ったこ

とで、共有をスムーズに行うことができた。また、生徒が自分のタイミングで見返したり、追加で入力したりすることができた。資料の配付や提示では、Google サイトを使い、単元ごとのページに授業内に使用する資料をまとめることで、一覧化し、スムーズに学習を進めることができた。持久走の時には、個人ごとにページを作成し、記録や心拍数記録の管理などを行い、自己の状態を把握することに活用できた。動画撮影やカメラアプリを使用し、自分の動きを客観的に見ることができ、振り返りや、技能習得へのきっかけづくりができた。

- ICT 機器の操作の習熟度に個人差があり、入力の時間に差があること、共同編集する際にトラブルが起きてしまうこともあった。



(F) Google サイト



(G) 持久走での心拍数記録表

記録		
R6 持久走大会	1500m	7'11
10.23	1000m	4'03
10.24	1000m	4'06
10.30	3000m	15'06

(H) 持久走での記録の蓄積



(I) 視点を絞った対話交流の様子



(J) 選択できる場の設定

○チームの課題分析、練習計画立案の活動では、「選択できる場の設定」と「対話・交流」を意識した活動を行った。撮影した動画からチームの特徴と課題を分析し、課題解決に向けた練習方法を相談して選択させた。相談する際には、身に付けさせたい力の2つに視点を絞り話し合いを行った。選択の際には、複数の練習から選択、お手本の提示、練習のレベルや目的の掲示をすることで、生徒自身が考えながら練習計画を立てることができた。教師が意図的に「選択できる練習場所」「対話・交流」の機会を設定することで、生徒自身が考え決定し、活動する様子が見られた。教師が「何のためにどのような活動させたいか」を明確にもつことが大切だと考える。

●充実した活動が行えたが、複数の場を準備することは教師側の負担が増えてしまうことにもつながるため、実態や発達段階に応じて、より精選して準備する必要があると感じた。

○個人課題を設定することで、友達の記録に左右されず自分自身の成長を実感でき、意欲的な発言や活動につながった。特に持久走では、これまでの記録を一覧化し生徒が確認できるようにしたことで、自ら毎時間目標を設定して取り組む生徒の様子が見られ、効果的な手立てであったと感じる。他にも高跳びの目標記録とベスト記録の差でポイントを付け、ランキング形式にしたり、サッカーの個人技能の得点やタイムで競ったりするなど、環境の設定の仕方次第で生徒の意欲に変容が見られた。

●個人課題設定の際に、より具体的に達成度難易度が適切な目標を設定させるために、生徒に声掛けや支援が必要なのがあった。

名前	自分の課題
	バスを味方に渡せるようにしたい、自分でゴールを決められるようにコントロールができるようになりたい。
	チーム内で声を掛け合いながらプレーをする。
	周りを見て、正確に仲間にバスをしてシュートまでもっていく。
	ひとりひとりがしっかり動き、バスやシュートを協力してできるように話し合いながら活動する。
	コミュニケーションをとって、チームワークを意識する。
	味方がバスを出しやすいように声掛けや空いているスペースに動く意識をもつこと、個人の技能を高めること。
	ドリブルをもっとうまくなって、チームワークを意識する。
	自分からしっかりボールをもらいに行く。

(K) 個人課題

7年	身長	50m	目標記録	得点	目標記録との差
	160	8.9	111	10	20cm
	163	9.8	103.5	9	15-19
	156	10.9	89	8	10-14
	137	10.4	84.5	7	5-9
8年				6	0-4
	157	9.9	99.5	5	-5~-1
	167	9	113.5	4	-10~-6
	159	7.9	120.5	3	-15~-11
9年				2	-20~-16
	152			1	-21以上
	163	8.3	118.5		
	158	8.9	110		

(L) 各自の目標記録と得点表

ランキング	得点	記録(cm)	名前
👑 1	8	100	
2	7	90	
2	7	120	
2	7	125	
3	5	110	
4	4	95	
4	4	90	
4	4	110	
4	4	103	

(M) 目標記録とベスト記録の差をもとにしたランキング



球技（サッカー）学習カード



ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ

50% | ¥ % .0 .00 123 | Arial | - 12 + | B I

A1 | fx

授業の計画				
回数	日付	内容	単元の課題	
つかむ ①	10/2	オリエンテーション	単元の課題	
②	10/3,6	試しのゲーム 単元の課題設定		
追究する ③	10/6,8	基本的なボール操作（パス・ドリブル）		
④	10/10	空間に走り込む動き		
⑤	10/14	ミニゲーム		
今日 ココー	⑥	10/17	チームの課題から練習計画を立てる	振り返りの例 前回までは○○だった。 今回の授業で□□と△△が大切だとわかった。 ○○に気をつけてやったらできるようになった。 次回は◇◇できるようにしたい。
⑦	10/20	チーム分析、作戦会議		
まとめる ⑧	10/21	記録会		
今日の振り返りを入力しましょう。				
日付	曜日	めあて	< 今日の振り返り > 3つの項目に分けて書きましょう。 すべて埋められるように。	先生のコメント
10/17	金	チェックリスト	○チームの課題	先生のコメント
		<input type="checkbox"/> めあてを意識して活動できた。		
		<input type="checkbox"/> 動きのコツを見つけることができた。		
		<input type="checkbox"/> 自分にあった練習の場を選べた。	○改善のために意識したポイント	
		<input type="checkbox"/> 友達や先生のアドバイスでヒントをもらった。		
		<input type="checkbox"/> 自分の課題を見つけることができた。		
		<input type="checkbox"/> 友達に動きのポイントなどアドバイスできた。		
		<input type="checkbox"/> ペア・グループで協力して練習できた。	○自由記述（感想など）	
		<input type="checkbox"/> 話し合いに積極的に参加できた。		
		<input type="checkbox"/> ルールを守って活動できた。		
<input type="checkbox"/> 準備・片付けを協力してできた。				
今日の合計ポイント 0 / 10		最後にこの下の黄色にカーソルをあわせてね。↓		
これまでの自分の振り返り 参考にしよう				
① ○わかったこと、できるようになったこと、まだできないこと… ○どのように解決したのか、どうしたらできたのか…				
② ○次がんばりたいこと、目標など…				
③ ○わかったこと、できるようになったこと、まだできないこと… ○どのように解決したのか、どうしたらできたのか…				
④ ○次がんばりたいこと、目標など…				
⑤ ○わかったこと、できるようになったこと、まだできないこと… ○どのように解決したのか、どうしたらできたのか…				
⑥ ○次がんばりたいこと、目標など…				

保健体育科学習指導案

単元名 「球技 サッカー」〔学指要領：E 第1・2学年 ア〕

令和7年10月17日（金） 第4校時 体育館
桐生市立黒保根学園 7・8・9年1組 10名 指導者 飯島 翔太

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、ボール操作と空間に走りこむなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技を苦手とする生徒が多いため、技術の行い方や名称を理解した上で、基本的な技能を身に付ける必要がある。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づきや思いを伝え合う活動は言われなくとも活発に意見交換ができる。 ・課題を見つけたり、作戦を立てたりする場面では、特定の児童が意見することが多い
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に取り組むことができる生徒が多い。また、ルールを守って協力でき、話し合いにも意欲的な姿勢がある。

2 評価規準

知識	<ul style="list-style-type: none"> ① サッカーには集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて言ったり書き出したりしている。 ② サッカーで用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて言ったり書き出したりしている。
技能	<ul style="list-style-type: none"> ① マークされていない味方や得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ② パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ① 自己やチームの課題を分析し、それを仲間に伝えているか、表現しているか。 ② 仲間と協力する場面で、担当した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③ 仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ① 練習がスムーズに進行できるように仲間の補助をしたり、ボール操作やゲーム中の動き、作戦に合った動きのポイントを仲間に助言したりして仲間の学習を援助しようとしている。 ② ルールを守り、互いの安全に留意するための声かけ、行動をとれている。 ③ 意見交流の場面で、課題や目的に応じて自分の意見を発表したり、書き出したりしている。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全8時間：本時第6時）

時	学習活動	知	技	思	態
1	・サッカーについて学び、授業のルールや進め方を確認する。(a) (b)	①			
2	・試しのゲームを行い、単元の課題を設定する。(a) (b) 対話・交流 単元の課題 チームの作戦を立て、仲間と協力してゲームをしよう。				③
3	・基本的なボール操作の技能を身に付ける。(a) (b) (c)	①	①		
4	・空間に走りこむ動きを身に付ける。(a) (b) (c)	②	②		
5	・ミニゲームを通してボール操作と空間に走りこむ動きの技能を高める。(a) (b) (c) 対話・交流		②	②	
6	・課題を選択し、仲間と意見交流しながら、解決に向けて練習計画を立てる。(a) (b) (d) 対話・交流 自己決定 試行錯誤			①	①
7	・自分のチームを分析し、まとめのゲームに向けて作戦を立てる。(a) (b) 対話・交流 自己決定 試行錯誤			③	③
8	・まとめのゲームをし、単元を振り返り、自己評価する。(a) (b)	総括的評価			

* 活用するコンテンツ等：(a) Google アプリ（サイト、フォーム、スプレッドシート、スライド）

(b) 動画資料 (c) カメラアプリ「タイムシフトカメラ」 (d) Canva

II 本時の学習 (6/8)

1 ねらい チーム練習をする場面において、これまでの自分たちのプレイから課題を選択し、それにあった練習計画を立てることができるようにする。

2 展開

<p>主な学習活動 予想される生徒の意識 [S]</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目 (観点)</p>
<p>1 準備運動・準備・ドリルゲーム (5分) 2 集合・整列・挨拶 3 前時の学習を振り返り本時のめあてをつかむ。(5分) S: ボールを持たない時に動かずにいることが多い。 S: 狙ったところにボールを出せていない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて> 自分たちの課題を考えて、練習計画を立てよう。</p> </div>	<p>○生徒が主体的に活動できるように、小グループごとに準備運動、練習を行う。 ○振り返りをしやすいように、前時に撮影した動画を提示する。 ○一度見せた後、どこに着目したらいいかを生徒の言葉で確認し、「ボール操作」と「選手の動き」に気付かせる。その後、もう一度動画を見て振り返る。</p>
<p>4 個人で気付いたことを自由に入力する。(3分) 5 意見をチーム内で共有しチーム課題を選択する。(8分) S: ボールコントロールを意識するために「ボール操作」を課題にしよう。 S: 動きながらボールを受ける練習をするために「空間に走り込む動き」を課題にしよう。 6 課題に合わせた練習計画を立てる。(3分)</p>	<p>○タブレットに入力したものを一覧で見られるように電子黒板に映しておく。 ○「ボール操作」「空間に走りこむ動き」のどちらかを集約した意見から選択させる。 ○課題だけでなくチームの長所にも目を向けさせ、練習の中でチームの強みを出していけるように声かけをする。 ○練習計画を全て作成するのではなく、型に当てはめられるようにテンプレートや見本、タスクゲームの例を提示し選択できるようにする。</p>
<p>7 練習計画をもとにタスクゲームをチームごとに実施する。(4分×2) S: パスを呼ぶ声を出したり、パスを出すときは味方の動きを予測してパスをしたりしてみよう。 S: ゴール前や誰もいない空間を目指して動いてみよう。 8 メインゲームを行う。(8分)</p>	<p>○タスクゲームごとに意識するポイント、コツがわかるようにしておき、それを意識するように声掛けをする。 ○動きの中でも意見交換しながら練習するよう促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目 (主①) 授業の様子から、「練習がスムーズに進行できるように仲間の補助をしたり、ボール操作やゲーム中の動き、作戦に合った動きのポイントを仲間に助言したりして仲間の学習を援助しようとしているか」を評価する。 ○課題練習で行ったことを意識できるように声掛け、チーム内でのアドバイスを促す。</p> </div>
<p>9 振り返りシートに入力する。(3分) 10 本時のめあてに対して、学習内容を振り返り、全体で共有する。(7分)</p>	<p>○各チームの「課題」と「改善のため意識したポイント」を中心に振り返らせる。 ○スムーズな発言、共有になるように、モニターに振り返りの様子を提示しながら全体で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目 (思①) 授業の様子及び振り返りシートの記述内容から、「自チームの課題を分析し、それを仲間に伝えているか、表現しているか」を評価する。</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><振り返り> S: 動画を見ると、自分たちが気付けないところに気付くことができた。 自分たちの課題は「空間に走り込む動き」だったので、ゴール前のスペースを見付けたり、相手のディフェンスを剥がす動きができたりするとよいと思った。タスクゲームの時に動きながらパスを出す、もらうことを少しずつ意識できた。</p> </div>	

実践3 桐生市立川内小学校

教諭 齊藤 大樹

(1) 実践内容

単元名 4年生国語

つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう

「友情のかべ新聞」(全11時)

ねらい

書かれていることつながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったところについて話し合うことができるようにする。

3 指導及び評価、ICT活用の計画(全11時間:本時第8時) ※指導に生かす評価〇、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	本文を読み、「問いをもと」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 単元の課題 書かれていることつながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったところについて話し合おう。			①
2	登場人物の性格や行動を確かめる。(い) (b)	①	①	
3	書かれていることつながりを見つけながら読み、登場人物の関係の変化を読み取る		①	
4	「ほく」の推理をいくつかの部分に分ける。	①		
5,6	壁新聞について「ほく」が何を手がかりに推理したのかを考える。 対話活動		①	
7	二人の関係の変化について、「ほく」が何を手がかりに推理したのかを考える。 対話活動		①	
8	二人が完全に仲良くなったのがいつなのかを考える。		①	
9,10	おもしろいと思った事を紹介することができるポップを作成する。			①
11	おもしろいと思ったことについて友達同士で伝え合う。 対話活動			①

(A) 単元計画

(2) 成果と課題

①共通の手立て

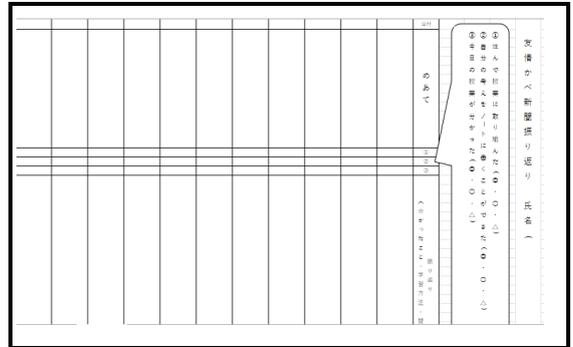
・振り返りについて

○振り返りを重視することにより、児童が学びを自覚することができると共に、一人一人の学びの様子が捉えやすく、その後の手立ての検討に役立たせることができた。また、書き方の例を黒板に掲示することで、振り返りの記入に時間のかかる児童も自分の学びを文章化することができた。発言に消極的な児童の思い、考えを知ることができ、指導に生かすことができたのも成果の一つである。また、振り返りを一覧化して単元全体として見返すことができる形式にしたことについて、児童からは「見やすい」「今までの学習が振り返りやすい」などの声が上がった。

●書き方を示していた中でも、「楽しかった」などしか記載できない児童もいたので、そういった児童への有効的な手立てを検

討していくことが必要である。

●どうしても記入に時間がかかり、一単位時間の中で十分な記入時間の確保ができないこともあった。



(B) 児童振り返りシート

・アンケートの結果について

国語アンケート(友情のかべ新聞)		よくあてはまる=4 あてはまる=3 あまりあてはまらない=2 あてはまらない=1			
		1	2	3	4
問1	国語は好きですか。 (上段-事前アンケート) (下段-事後アンケート)	0	4	9	6
問2	国語の授業では自分の考えをもちょうとしていきますか。	0	5	12	2
問3	楽しく前向きな気持ちで国語の授業に参加できていますか。	0	2	10	7
問4	自分の考えを友達に話すことは好きですか。	1	6	7	5
問5	周りの友人の意見を大切に、考えを深めていますか。	0	3	8	8
問6	分からないことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。	0	5	14	0
問7	分からないことをそのまませず、質問をしていますか?	1	5	9	4
問8	振り返りについては、ノートに毎回書くものと、プリントで一枚にまとめているのとではどちらが良いですか。	プリント	ノート		
		10	9		
		12	7		

(C) アンケート結果

○ほぼすべての項目で「あまりあてはまらない、あてはまらない」の回答者数が減り、「よくあてはまる、あてはまる」の回答者数が増加した。主体性を問う質問項目が中心となるアンケートであることから、講じた様々な手立てが影響していると考えている。「登場人物がその後どうな

ったのか気になる」「もっとやりたい」というような発言をするような児童も見られた。

- 「分からないことをそのままにせず、質問をしていますか」の質問に対しては、大きな変化が見られなかった。「あまりあてはまらない、あてはまらない」と回答した児童に聞いてみると、「どう聞けばいいか分からない」「質問しても分からない」等の意見であった。また、友人の意見にばかり頼る部分が見られることもあり、自分で考える時間を大切にすることができない児童も一定数いると考えられる。

②各教科の手立て

単元構想を工夫し、主体的に学び自律した学習ができる児童の育成を目指して以下の手立てを用意した

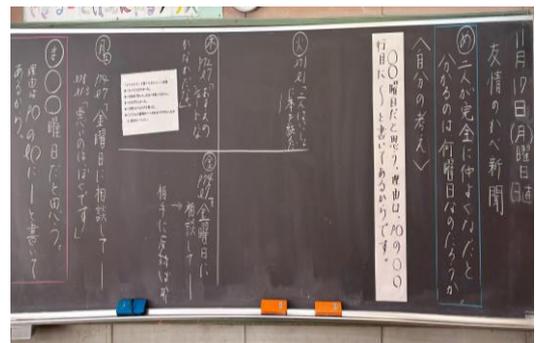
- ・児童と共に作成する単元計画
- ・自分の考えをノートに書く際の書き方例の提示
- ・使用する用紙の選択
- ・学習の手助けとなる学習掲示物の作成
- ・充実した対話・交流活動の設定

○児童と共に作成した単元計画については、事前に教師が単元の構想を練った上で、児童に身につけさせたい内容を踏まえながら作成したものである。文学的な文章の学習において、学習を深めるのに必要なことを単元のゴールを先に児童に示しておくことで、児童の発言からどのような学習計画が望ましいかということを考えることができた。単元の見通しを持つことにつながり、「自ら課題を見つける児童」につながる手立てなのではないかと考える。

○自分の考えをノートに書く際の書き方例を提示することについては、

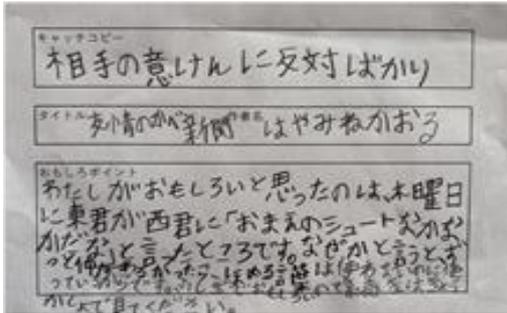
今までは自分の考えを書く事を苦手としていた児童も、書き方例に沿って記載することができた。非常に有効的であったと考える。自分の考えがしっかりとノートに書けていると、自信が持てるようになる。次第に書き方の例がなくとも意見を書けるようになり、「自分なりの表現ができる児童」につながっていくと考える。

- 「ノートに自分の考えを自分なりに書く」ことや見通しを持って活動する中で「自分の課題を見つける」ということは積極性が見られたが、「分からないことを質問する」ことについては、児童差が大きく見られた。

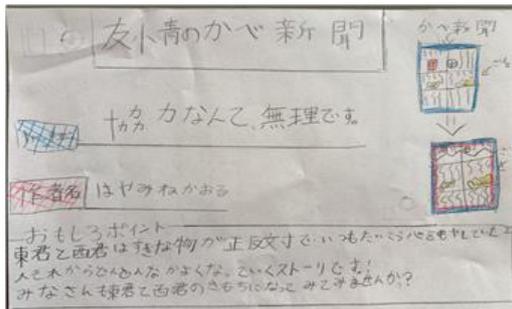


(D) 考え・振り返りの書き方の例を示す板書

○単元の最後に「面白いと思ったことを友達と話し合う」活動を行う際に用いる「ポップ作り」用紙の型を複数用意することで、児童が自ら書きやすい用紙の型を自己決定することができる場面を設定した。どこにどんなことを書けば良いのかを示す型を作成しただけでも、低位の児童の意欲が増したように思う。



(E) 選択できる用紙 (枠有り)

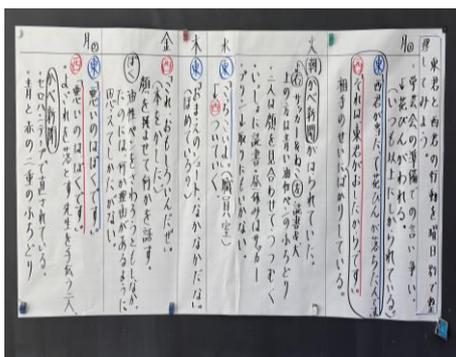


(F) 選択できる用紙 (枠無し)

えが深まる様子があった。

- 「他者の意見を受けて、考えを修正したり、広げたりする」 ことについて、対話活動に深みを持たせることができず、自分の意見を言う、他者の意見を聞くことの二点のみとなってしまう児童も多かった。話し合う際の視点の示し方に課題があると考えられる。

- 学習内容を振り返ることができる掲示物を作成し、児童が困った際には常に振り返ることができるような状態にした。それを見て次の課題解決に生かすことができた児童もいて、有効的な掲示物となった。



(G) 既習事項を振り返る掲示物

- 充実した対話活動を行うことについては、ペアでの交流にグループワークなど、目的に応じて形態を分けながら適切な対話・交流活動の場を設定することができた。「友人の考えを聞くまで、その考えは思いつかなかった」など考

国語科学習指導案

単元名「つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう」

教材名「友情のかべ新聞」〔学指要領：思C(1)エ、知(3)オ〕

令和7年11月17日(月) 第2校時 4年1組教室
 桐生市立川内小学校 4年1組 指導者 齊藤 大樹

I 単元(題材)の構想

1 単元(題材)の目標及び児童(生徒)の実態

	目 標	児童(生徒)の実態
知識及び技能	・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報をえることに役立つことに気づくことができる。(3)オ	・「読書」に対しての意欲に差はあるものの、積極的な児童が多い。しかし、何かを調べるための読書活動をする児童や新たな文学的な文章を読んで新しい世界に触れる活動はよく行っている。
思考力、判断力、表現力等	・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。C(1)エ	・既習単元の「白いぼうし」や「一つの花」の学習では、場面の移り変わりや叙述に立ち返りながら思考することができる児童は少ない。
学びに向かう力、人間性等	・積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けながら想像して読み、学習の見通しを持っておもしろいとおもったところを伝え合おうとすることができる。	・興味を持った文章に対する学習意欲は非常に高く、そのような状況下だと互いの考えを伝え合う事へも活発に活動する児童が多い。また、活動方法を具体的に示すことで積極性が見られることもしばしばある。

2 評価規準

知識・技能	①幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。
思考・判断・表現	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。
主体的に学習に取り組む態度	①積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わり結び付けながら想像して読み、学習の見通しを持って、おもしろいとおもったところを伝え合おうとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画(全11時間:本時第8時) ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	主
1	・本文を読み、「問いをもとう」「目標」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 単元の課題 書かれていることつながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったところについて話し合おう。			①
2	・登場人物の性格や行動を確かめる。(い)(b)	①	①	
3	・書かれていることつながりを見つけながら読み、登場人物の関係の変化を読み取る		●	
4	・「ぼく」の推理をいくつかの部分に分ける。	●		
5 6	・壁新聞について「ぼく」が何を手がかりに推理したのかを考える。 対話活動		●	
7	・二人の関係の変化について、「ぼく」が何を手がかりに推理したのかを考える。 対話活動		●	
8	・二人が完全に仲良くなったのがいつなのかを考える。		●	
9 10	・おもしろいと思った事を紹介することができるポップを作成する。			①
11	・おもしろいと思ったことについて友達同士で伝え合う。 対話活動			●

*活用する学習支援ソフト等:(あ) (い) (う)

*活用するコンテンツ等:(a) デジタル教科書

II 本時の学習（8／11）

1 ねらい 二人の関係が変わったタイミングについて、叙述を基にして自分の考えをまとめることができるようにする。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 （5分） <めあて> 二人が完全に仲良くなったと分かるのは、何曜日の事なのだろうか。 S：東君も西君も色々な行動を取っていたから、タイミングはたくさんありそうだよね。	○本時のめあてをつかむことができるように、前時までに話し合った推理の手がかりについてどのような叙述があったか問いかける。 【★提示】 ○電子黒板を活用し、どのあたりを探した方が良いのかを示すようにする。
2 個別に本文を読み、自分の考えをノートに書く。 （10分）5分 二人の台詞や行動に変化が見られる箇所はどこかな？教科書に線を引いてみよう。 S：かべ新聞が張られたのは火曜日だから、それ以降の話が怪しいよね。 S：今までの行動にもヒントが隠れているかな・・・	○机間巡視の中で個別指導を行う。 ○「教科書の〇〇のところから、自分はこう思う」というように、教科書のどの叙述を基にした考えなのかが分かるように書かせる。
3 グループ内での話し合い活動を行う（10分）7 「グループで意見交換を行ってみよう」 S：僕は金曜日が怪しいと思うんだよね・・・。 S：私は月曜日だと思う。	○児童同士の意見交換の際の簡単な決まり事を確認し、円滑に対話活動ができるようにする。 ○友人の意見に対する反応例を示し、活発な意見交換ができるよう促す。
4 ノートに書いた考えを全体で共有し、二人の関係性が変わったと考えられる箇所をみんなで探す（13分）20分 S：敵でも褒めることはあるから、おすすめの本の話をしている箇所だと思うな。 S：壁新聞を二人で直した月曜日だと思うな。	○発言に偏りがないう意図的に指名をする。 ◆評価項目（思①） ノートの記述・発言内容から、「二人の関係が変化した箇所について、叙述を基にして自分の考えをまとめているか」を評価する。
4 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容を振り返る。（7分） <まとめ> 壁新聞が青と赤の二重のふち取りで一周するように二人で直した月曜日が、二人が完全に仲良くなったと分かる曜日である。（状況によって無理にまとめない）	○児童の意見をまとめ、文章にすることができるように、発言内容を参考にしながら板書する。
<振り返り> S：意見交換をした友達は、僕が注目していなかった部分に注目して仲良くなったことが分かる部分を考えていたので、友達の考えを聞くことができてよかったです。	

6 研究のまとめ

(1) 成果

本研究での各教科における共通している成果は以下の通りである。

①有効的な対話・交流活動の設定

各教科の実践での単元構想の工夫という点において、効果的な対話・交流活動の場を設定することで、児童生徒の学習が深まり、意欲的に学習する姿が見られた。ペア学習やグループワークにより、自己解決の段階では気づかなかった考え方や視点に触れることができたり、活発な対話・交流活動が行われたりした。また、保健体育科ではチームの課題を模索したり、作戦を練ったりする過程で対話・交流活動が行われ、その後の活動への積極性が見られるようになった。

②振り返りを重視したこと

振り返りを重視し、手立てとして単元全体を通して、各単位時間の振り返りを見返すことができるよう、一覧化した形式で行った。また、選択欄と記入欄を設け、選択欄では、児童生徒は達成度が一目で分かり、達成感を実感できるようになった。また、記入欄では視点（分かったこと、これからやらしてみたいこと等）と書き方を示し、それについて自分の学びを文章で記入することができるようになった。授業者にとっても、学びの様子が捉えやすく、その後の手立ての検討に役立てることができた。

③自己決定の場の設定

自己決定の場を設定することで、自分に合った学習方法を選択して課題に取り組む様子が見られた。国語科では、ポップ作成の型を複数用意したところ、多くの児童が自分に合った型を選択でき、低位の児童が意欲的に活動していた。自分で選択したことにより、活動に前向きに取り組めるのではないかと考える。効果的に設定するためには、振り返りやアンケート、普段の授業の見取りからの実態把握、それぞれの場にどんな意図があるのかを教師側が明確にしておく必要がある

と感じた。

(2) 課題

本研究での課題は以下の通りである。

①対話・交流活動における視点の提示

各教科で行った単元構想の工夫の中での有効的な対話・交流活動の場の設定において、児童生徒同士の考えが深まるような対話・交流活動ができなかった場面も見られた。自己解決の段階で用意した自分の考えをただ伝達するだけにとどまり、互いの意見に対して質問し合う等の考えが深まる姿が見られなかった。「対話・交流活動における視点」を示さなかったことが原因の一つなのではないかと考える。明確な視点を与え、児童生徒が何を目指した活動なのかを理解し、対話・交流活動を行うことが重要である。

②振り返り時間の確保

振り返りでは、記入欄に自分の考えを書くことに時間がかかる児童生徒もいて、時間を十分確保することが難しかった。また、振り返りを重視しすぎると、学習や活動する時間が減ってしまうこともあった。今後は、学習や活動を充実させつつも、いかに振り返りの時間を確保するかと、振り返りの形式の更なる検討が必要と考える。

③実態に応じた手立ての工夫について

単元構想の工夫を行っていく中で、教師側が複数の手立てを用意した。実際に取り組ませていくと、準備不足や児童生徒にとって必要以上の支援になってしまうこともあった。適切に手立てを講じることができれば、効果的に使えるものだが、実態や発達段階に応じて、教師側が精選していく必要があると考える。また、授業前の準備にも時間がかかりすぎてしまう、授業時間内に活動が多すぎてしまうなどの難しさもある。そのためにも、教師側が単元構想の際に、アンケートや見取りからの実態把握、単元の途中でも活動の様子次第で変更を加えるなどの準備をすることで児童生徒にとって最適な手立てになると考える。

7 終わりに

本研究では、主体的に学び自律した学習ができる児童生徒の育成を目指し、自身の学びを実感できるような活動や場の設定、振り返りの方法を工夫した単元構想を行った。児童生徒の主体的な学びを実現するために、様々な手立てを取ることで、よりよい授業づくりに取り組むことができた。

また、研究を進める上で、改めて単元構想の工夫の重要性を感じた。そのことが、個別最適な学習にもつながり、個々の実態に合わせた課題の設定や支援の仕方が、児童生徒の意欲にもつながると考える。

本研究が、授業改善のための一助となれば幸いである。

最後に、本研究を進めるにあたり、ご指導、ご助言、ご協力をいただいた、たくさんの方々に心から感謝を申し上げます。

授業における ICT 機器活用の可能性

— 個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた、 ICT 機器を活用した授業づくりを通して —

桐生市立菱小学校 松田 仁
桐生市立清流中学校 曾根 和樹

桐生市立境野小学校 樋口 連太郎

1 主題設定の理由

文部科学省は、『学校の ICT 環境整備 3 年計画(2025～2027 年度)』（以下「整備計画」という。）において、学校における ICT 環境整備は、一人一人の子供を主語にする学校教育の目指すべき姿を実現するための視点から、これまでどおりの指導や学習を単に効率化する付加的なものではなく、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等を図る上で必要不可欠な学習基盤であることなどを踏まえ、検討する必要があることを示している。

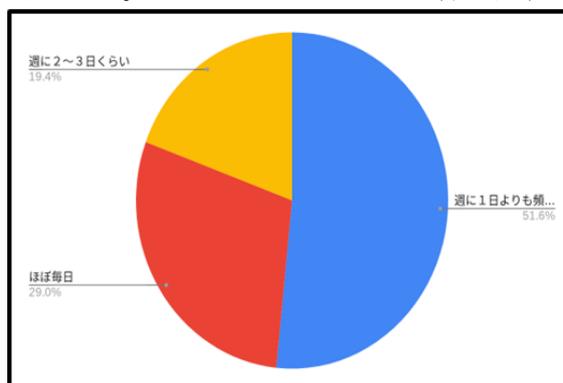
群馬県教育委員会は、第 4 期群馬県教育振興基本計画『群馬県教育ビジョン』において、最上位目標を「自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて一ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける『自律した学習者』の育成」と位置づけ、目指す学習者像の実現のために 5 つの重点政策を定めている。重点政策「時代の変化に対応した教育イノベーションの推進」の中で、『教育 DX (DX を基盤とした新しい学びの確立)』『デジタルツールを使いこなす (デジタル人材育成)』を推進していくとしている。そのために、重点政策「これからの時代の学びを見据えた体制の整備」の中で『デジタル学習基盤の整備』が必要であるとしている。

これらの方針を基に桐生市教育委員会では、今年度、全ての小・中・義務教育学校に電子黒板やデジタル教科書等を中心とした ICT 機器の整備を行う。電子黒板、タブレット端末、デジタル教科書、学習支援ソ

フト等のデジタルツールを効果的に活用することで、児童生徒の学習活動への興味関心がさらに高められ、より深い学びに繋がっていくと期待される。

そこで、研究員の所属校にて、授業を受け持つ教師を対象に、ICT 活用能力や導入される「デジタル教科書」「電子黒板」に対する意識調査を目的に、アンケートを実施した。

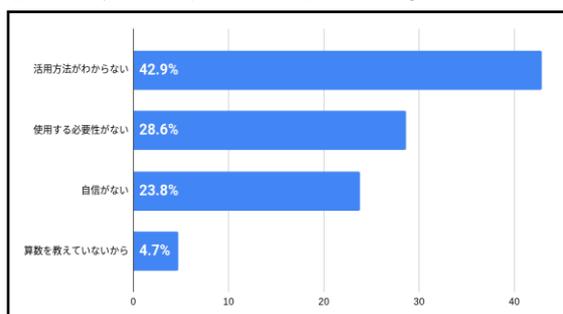
問 1. デジタル教科書の使用頻度を教えてください。
31 件の回答



問 2. デジタル教科書の使用頻度が低い理由について教えてください。

(複数回答可) 16 件の回答

※問 1 において、デジタル教科書の使用について「週に 1 日よりも頻度が少ない」と答えた教師の中での割合である。

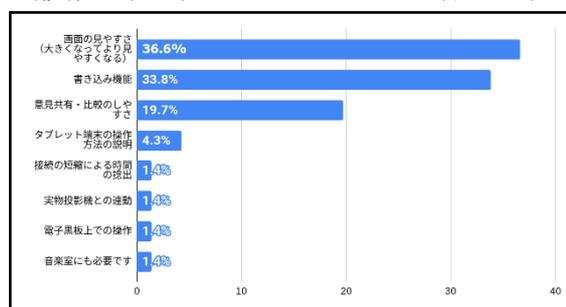


問1、2の結果より、デジタル教科書の使用について「週に1日よりも頻度が少ない」と回答した教師が半数以上いることが明らかになった。「活用方法がわからない」という理由が約半数を占め、「活用する必要性がない」「自信がない」という理由も多く挙げられていた。

次に、電子黒板に対する意識調査についてのアンケート結果を以下のグラフにて示す。

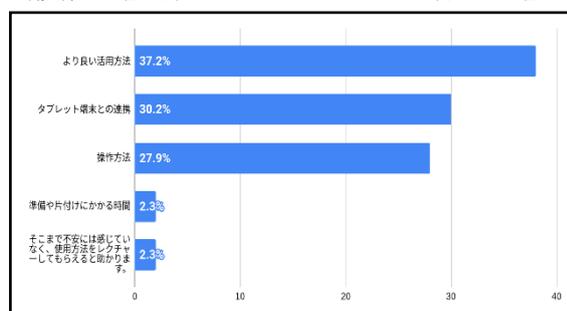
問3. 電子黒板に期待していることは何ですか。

(複数回答可) 71件の回答



問4. 電子黒板を使用する際に不安なことは何ですか。

(複数回答可) 43件の回答



問3の結果より、電子黒板に対して「画面の見やすさ」「書き込み機能」への期待が多く、視覚的效果をねらっていることがわかった。また、「意見共有・比較のしやすさ」の回答も多く、電子黒板の機能を生かした新たな交流方法を選択できるようになっていることがわかった。

その反面、問4の結果に示すように、「タブレット端末との連携」や「活用方法」、「操作方法」に対して不安であるという意見が多く挙げられていた。

このことから、デジタル基盤が整備されたとしても、ICT機器を効果的に活用した学びの場の提供においては、これらの不安感を払拭しない限り、教師個々のスキルの違いや意識等の影響で活用が進まず、学級間・学校間格差が生じることが懸念される。そのため、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる上で、タブレット端末はもちろんのこと、電子黒板やデジタル教科書等のICT機器を不安なく活用できるよう、ICT機器を効果的に活用した授業づくりを提案し、発信していくことが必要であると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、授業におけるICT機器の効果的な活用方法を検討・実践・情報発信することは、ICT機器の効果的な活用を推進する上で効果があったか、その有用性を明らかにする。

3 研究の見通し

電子黒板をはじめとする様々なICT機器を活用して、一人ひとりが自分の課題を解決する方法を試したり、友達と協力して課題を解決する方法を話し合ったりするなど、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びが実現すれば、ICT機器の効果的な活用が図れたと言えるだろう。

4 研究の内容と方法

(1) 研究計画

1 学期	<input type="checkbox"/> 研究主題・副主題の検討 <input type="checkbox"/> 主題設定の理由の検討 <input type="checkbox"/> 主題検討会
2 学期	<input type="checkbox"/> 指導案の検討 <input type="checkbox"/> 研究のねらい・見通し・研究・計画の検討 <input type="checkbox"/> 中間検討会（班別協議） <input type="checkbox"/> 授業実践（各校・各教科）

	○電子黒板・デジタル教科書の活用法の共有
3 学期	○草案検討会 ○研究報告原稿の作成 ○研究報告原稿のまとめ

(2) 基本的な考え方

①個別最適な学びとは

・子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

・子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が、学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

文部科学省「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」より

②協働的な学びとは

・探求的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

文部科学省「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」より

上記の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を実現するために、授業において ICT 機器を効果的に活用し、活用した事例等の情報を発信していきたい。

5 研究の実践

別添の資料に、ICT 機器を活用した実践例として、電子黒板やタブレット端末を用いた提案授業（別添資料 1）と提案授業以外での活用例（別添資料 2）を収集した。

提案授業の概要を以下に示す。

実践 1 菱小学校 教諭 松田 仁

教科名 社会科

単元名 「江戸幕府の政治と安定」

「資料読み取りの場面で、ミライシードのオクリンクプラスと電子黒板を活用し、学習形態や学習方法を自己決定させながら、江戸幕府による参勤交代政策の意図や効果を考えられるようにする。」

実践 2 境野小学校 教諭 樋口 連太郎

教科名 生活科

単元名 「たのしいあきいっぱい」

「園児のために作ったおもちゃを発表する意見交流の場面で、ミライシードのオクリンクプラスと電子黒板を活用することで、園児のために作ってきたおもちゃや、遊びの楽しさに気づくことができるようにする。」

実践 3 清流中学校 教諭 曾根 和樹

教科名 国語科

単元名 「読みを深め合う」

「友達が作成した CM を鑑賞する場面で、ミライシードのオクリンクプラスと電子黒板を活用することで、表現の仕方を評価し自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。」

6 研究のまとめ

(1) 研究の成果

本研究では、次の点が成果として挙げられた。

①個別最適な学びについて

単元や一単位時間のねらいを達成するために、教科書や資料集等のアナログ教材だけでなく、タブレット端末等の ICT 機器も自由に活用させ、「何を」用いて、「どのように」学習に取り組むのか、自己決定の場を与えたことで、主体的に学習に取り組むことができていた。また、オクリンクプラスや Canva などの学習支援ソフトを活用することで、一単位時間の学習の様子や成果物が順次タブレット端末に蓄積され、学

習を振り返り、自己調整しながら学習を進めることができた。

②協働的な学びについて

オクリンクプラスといった学習支援ソフトや電子黒板の表示機能や書き込み機能を使うことで、児童生徒の学習活動を共有したり、比較検討したりする学習場面がより容易に設定できるようになった。共通点や相違点を見つけたり、新たな考えに触れさせたりしたい場合に効果的であった。また、「誰と」学ぶのかを自己決定し、タブレット端末を持ち運び、児童生徒同士が集まって意見交流をしながら試行錯誤している場面も見られた。

これまでの学習の蓄積や成果物をタブレット端末上で見せ合い、互いにアドバイスしたり称賛したりすることは、他者の考えを尊重した上で、自らの考えを広めたり深めたりしようとする協働的な学びの実現につながった。

(2) 研究の課題

①個別最適な学びについて

タブレット端末が一人一台あることで、学習活動の自由度はこれまで以上に高まっている。しかし、発達段階や ICT 機器を扱う技能の習熟度は児童生徒によって異なる。

児童生徒の実態を適切に見取り、多様なニーズに応えながらも、単元や一単位時間のねらいを達成するためにタブレット端末や電子黒板等の ICT 機器を効果的に活用してどのような学習活動を組み立てるか、より細かな部分まで考える必要がある。

②協働的な学びについて

教師の指示の曖昧さや ICT 機器の活用の仕方によっては、学習活動が情報の共有や比較検討にとどまり、他者の視点を受けて自らの考えを振り返ったり、違った考えを持つようしたり、より具体的に表現しようとする段階まで至らず学習を深められないことがあった。

児童生徒が協働的に学ぶ姿とはどのような姿なのかをイメージし、その姿の実現の

ためには、ICT 機器の機能や効果を吟味して、学習活動を設定する必要がある。

7 おわりに

ICT 機器活用班は、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、ICT 機器を活用した授業づくりと授業における ICT 機器の効果的な活用方法について検討・実践・情報発信を行ってきた。本研究を通して、タブレット端末・電子黒板・書画カメラなどの ICT 機器について、その機器を用いてできることを把握し、学習活動のねらいに即して適宜活用していくことで、児童生徒一人ひとりが主体的で対話的な深い学びを実現していこうとする姿を見ることができた。

また、ICT 機器の効果的な活用場面や活用方法について検討を重ね、情報発信を行ってきたことで、事前のアンケートにおいて ICT 機器の活用に不安を抱いていた教師も、ICT 機器を活用した授業づくりに意欲的に取り組んでいる様子が見受けられた。

本研究が、授業における ICT 機器の活用に不安を抱いている教師や効果的な活用を日々模索している教師にとって、授業づくりの一助になれば幸いである。

最後に、本研究を進めるにあたり、ご指導やご助言をいただいた多くの方々に、心からお礼申し上げます。

社会科学習指導案

単元名「江戸幕府の政治と安定」〔学指要領：第6学年の内容（2）ア（キ）〕

令和7年10月31日（金） 第2校時 6年1組教室
桐生市立菱小学校 6年1組 27名 指導者 松田 仁

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童の実態

	目 標	児童の実態
知識及び技能	・文化財や地図、年表などの資料を調べることを通して、江戸幕府が武士による安定した政治を確立したことを理解することができる。	・各単元における重要語句については概ね理解しており、時代の特徴や歴史的事象については一問一答形式では答えることができる児童が多い。
思考力、判断力、表現力等	・江戸幕府が行った各政策の目的や効果に関連、総合することを通して、江戸幕府がどのようにして安定した政治を確立させたか文章で表現することができる。	・これまでの大きな歴史の流れは、複数の歴史的事象の関わり合いで形作られていると理解し、それを各単元のまとめで文章表現できた児童は、学級の半数程度である。
学びに向かう力、人間性等	・江戸幕府の各政策についての資料を読み解く学習活動において、個人やグループで進んで歴史的事象や社会背景を追究しようとする。	・提示された資料の読み取りを進んで行う児童が多く、資料同士のつながりを考えたり不明なことをさらに調べようとしたりする児童が多い。

2 評価規準

知識・技能	・文化財や地図、年表などの資料を調べることを通して、江戸幕府が武士による安定した政治を確立させるために各種政策を行ったことを理解している。
思考・判断・表現	・文化財や地図、年表などの資料から問いを見いだすとともに、江戸幕府が行った各政策の目的や効果に関連、総合することを通して、江戸幕府がどのようにして安定した政治を確立させたかを文章で表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・江戸幕府の各政策についての資料を読み解く学習活動において、予想や学習計画を立てたり、個人やグループで進んで歴史的事象や社会背景を追究しようしたり、学習を振り返ったりして、主体的に課題を追究し解決しようとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画（全6時間：本時第3時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・前時代と江戸時代の比較から学習課題を決め、江戸幕府の始まりから、政策を予想する活動を通して学習計画を立てる。(a) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">単元の課題 江戸幕府は、どのようにして力を強め、政治を安定させようとしたのだろう。</div>			●
2	・徳川家康、秀忠が行った、江戸幕府を安定させるための政策を理解する。(a)	●	●	○
3	・徳川家光が行った、大名支配を目的とした政策を理解する。(a)	●	●	○
4	・江戸幕府が行った、民衆支配を目的とした政策を理解する。(a)	●	●	○
5	・江戸幕府が行った、宗教政策と対外政策を調べ、社会への影響を理解する。(a)	●	●	○
6	・江戸幕府の政治についてまとめ、単元の課題に対する答えを整理する (a)	●	●	●

*活用するコンテンツ等：(a)オクリンクプラス

II 本時の学習 (3/6)

- ねらい 参勤交代にまつわる資料を読み解く学習を通して、参勤交代が全国の大名を効果的に支配する政策であったことを理解できるようにする。
- 展開

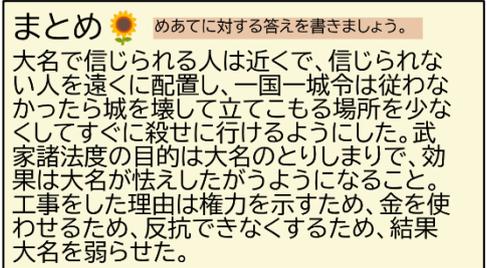
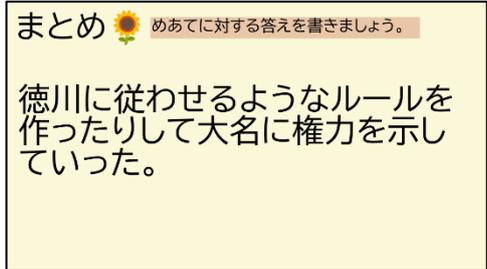
【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童の反応〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分) <めあて> 江戸幕府を長く続けるために、家光はどのようなことを行ったのだろう。	○児童が簡潔に振り返れるように、オクリンクプラスで作成した前時のまとめカードと振り返りカードを電子黒板に提示する。 【★提示】 ○児童の主体性に問いかけるように、事前に決めてある本時のめあてを想起するよう促す。
2 個別/集団を選択し、徳川家光の時代に整えられた参勤交代にまつわる資料を読み解く。(10分) 【★書き込み・整理】 「徳川家光をはじめとする江戸幕府が整えた参勤交代という制度はどのようなものだろう。」 S：参勤交代という制度は、大名が自らの領地と江戸とを往復する政策だったようだよ。 S：1年おきに江戸に住まなければいけなかった。 S：大名だけでなく家臣たちもいっしょに行かなければならなかったんだ。	○児童が学び方と資料の選択ができるように、これまで通り学び方の自由と資料選択の自由について伝える。 ○児童が資料の概要を把握できるように、配付した資料の題名とその資料から読み解くべき事柄を全体で確認する。 【★配付・提示】 ◆評価項目（知） オクリンクプラスのカードの記述から、「参勤交代の主な内容について調べ記録しているか」を評価する。
3 全体で読み取った歴史的事象を共有し、追究する。(20分) 【★提示】 「参勤交代という制度の目的と効果はどんなものだろう。」 S：大名を疲れさせる目的があったと思うよ。 S：大名の妻と子どもを人質にすることで、大名を従わせる効果があったと思う。 S：お金もたくさんかかったから、大名は貧しくなっていたと思うよ。 S：参勤交代の目的は、大名の力をそぎ、抵抗する力をなくさせることで、結果的に大名を支配することにつながったんだね。	○児童が調べ、考えた内容をもとに全体で追究することができるように、オクリンクプラスの提出ボックスに自分のカードを提出させ、それを提示する。 【★提出・共有・一覧表示】 ○課題解決に向けて効率よく追究できるように、意図的に提示するカードを選択する。 【★提示】 ○歴史の流れや歴史的事象のつながりを、児童が整理しやすくなるように、児童に提示した資料を黒板にも掲示し、児童の考えを構造的に板書する。 ◆評価項目（思） オクリンクプラスのカードの記述と発言から、「参勤交代にはどのような効果があったかを考え、それが江戸幕府の政治の安定につながったと表現しているか」を評価する。
4 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容を振り返る。(10分) 【★データの保存・提出】 <まとめ> 江戸幕府は参勤交代を行うことで、各地の大名に費用や労力を使わせ、幕府に逆らえないようにすることで、大名を支配していた。 <振り返り> S：江戸幕府が行った参勤交代について、友達と協力して考えた。大名を弱らせ支配することが目的だと分かった。	○児童が学習の流れを振り返り、自分でまとめが書けるように、全体でめあてを確認し、板書を指しながらキーワードを伝える。 ○児童が、自身で書いたまとめを客観的に確認したり、自分のまとめに自信をもったりすることができるように、オクリンクプラスでカードを提出させる。 【★一覧表示】

Ⅲ 実践事例の紹介

①オクリンクプラス「まとめカード」

一単位時間ごとに児童に右記のようなまとめカードを配布している。本学級の社会の学習では、一律同じ文言でのまとめは行わない。そのため、このまとめカードには、毎時間児童が個別に本時のまとめを記入していく。社会科が好きだったり、歴史的事象を言語化する能力が高かったりする児童は、一人でどんどん書き進めることができる。しかし、そうではない児童については、なかなか書き進めることができない。そういった児童に対しては、オクリンクプラスの提出ボックス機能を用いて、他の児童のまとめを参照してもよいこととしている。そうすることで、他の児童が使っている語句や表現を参考にすることができたり、歴史的事象どうしのつながりをどのように文章化すればよいか理解できたりする。また、このまとめカードは、次時の導入で前時の振り返りとして活用している。導入もまとめも児童の言葉でつながっていくため、児童の主体性に働きかける狙いがある。



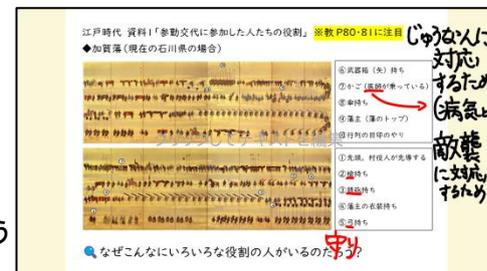
②オクリンクプラス「資料カード」

一単位時間ごとに児童に右記のような資料カードを3～5枚配布している。この資料カードには、明らかにしたい歴史的事象についての画像や文言が載せてある。そして、最も重要なのが、この資料から「何を」読み取りたいかが分かるよう、「視点」が示されていることである。読み取らせたいことを示すことで、児童の迷いをなくし、ねらいに迫りやすくする効果がある。また、どの資料カードから考えてもよいし、誰と一緒に学んでもよいということになっているため、資料カードの読み取り学習は、児童の自己決定の場面でもある。



③電子黒板への書き込み

児童は、読み取ったり考えたりしたことを、電子黒板に書き込みに来る。それが右記の画像である。一人ひとりに資料カードはあるが、座っての学習を好まず、立ち話のように学習を進めたい児童もいる。そういった児童のために、電子黒板にも資料カードを提示しておき、自由に書き込んでよいことにしている。個別最適な学びという点では電子黒板も児童が使える道具の1つになり得るし、協働的な学びという点でも、大きな画面に複数の児童の意見が書き込まれていくことで、考えの広がりや深まりが見られた。



Ⅳ 成果 (○) と課題 (●)

- 複数枚の資料カードから学ぶ順番を考えさせたり、離席や移動の自由を許可したりと、児童に学び方を自己決定させてきたことで、児童が主役となる主体的な学びを実現することができた。
- タブレット上で個別や集団で学んだことを電子黒板で共有したり、共有して比較検討した結果を黒板に記述したりと、電子黒板と黒板の特性を生かした活用方法を設定した。電子黒板での共有は、学びの交流を目的としていたため、児童の様子から新たな気づきがあったり、自分の考えを確かなものにしていたりする様子が見られ、効果的であったと考える。黒板への記述は、児童が導き出した考えを整理し、共通理解を図ることを目的としていたため、その後のまとめカードへの書き込みから、文章化が苦手な児童でもまとめを書くことができ、効果的であったと考える。
- 児童に自己決定させることを重視しているため、資料の数が多かったり、資料に載せる内容が高度過ぎたりすると、活動時間が確保できない児童が出てきてしまう。量と内容の精選は入念に行う必要がある。
- 個別最適な学びをより促進するためには、教師が提示した資料だけではなく、答えを導き出す資料も児童が見つけ出すという学習を行っていく必要がある。

生活科学習指導案

単元名「たのしいあきいっぱい」

〔学指要領：(5) 季節の変化と生活、(6) 自然や物を使った遊び〕

令和7年11月14日(金) 第2校時 1年2組教室
桐生市立境野小学校 1年2組 20名 指導者 樋口 連太郎

I 単元の構想

1 単元の目標及び児童の実態

目 標	児童の実態
<ul style="list-style-type: none"> 学校や地域にある秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ、自然の様子や季節の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとする事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なつがやってきた」の学習では、校庭の夏探しを通して、緑が多くなったことや気温の変化など、季節の変化に気付くことができた。 夏の自然を生かした遊びでは、アサガオで色水を作ったり、水遊びをしたりして楽しんでいたが、ルールを作ったり、工夫したりすることに難しさがあったと感じた。

2 評価規準

知識・技能	①秋の自然の様子や特徴、夏から秋の季節の変化に気付いている。 ②秋の自然を使った遊びの楽しさや、遊びを工夫したり創り出したこと面白さに気付いている。 ③遊びのルールを守ることで、みんなと楽しく遊べることに気付いている。
思考・判断・表現	①秋の自然の良さや特徴、季節の変化を確かめながら遊んだり、遊びに使う物を選んだりしている。 ②さまざまな秋の自然の物を比べたり試したり、遊んだときのことを予想したりしながら、遊びに使う物を工夫して作ったり、遊んだりしている。 ③秋の自然と自分の関わりを振り返りながら、伝える相手に応じた表現の仕方で伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	①秋の自然の様子や特徴に応じて、秋の自然と繰り返し関わろうとしている。 ②季節を生かして遊びたいという願いや思いをもち、粘り強く遊びに使う物や遊びを創り出そうとしている。 ③みんなと遊ぶ楽しさを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画(全20時間：本時第15時) ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	<ul style="list-style-type: none"> 夏の遊びや夏を感じる物についてのまとめを振り返り、身の回りで見つけた秋を感じる物について話し合う。(a)(b)(c) 			①
2,3	<ul style="list-style-type: none"> 校庭の秋探しで見つけた物から、秋の様子や特徴、季節の変化について考える。 	①		●
4~6	<ul style="list-style-type: none"> 市民広場で秋探しを行い、木の実や葉などの「秋のおきにいり」を集めたり、遊んだりして季節の変化を感じる。 市民広場で見つけた「秋のおきにいり」や自然の変化について、気付いたことやそれらを使った遊びに使う物や遊びについて話し合う。 	●	①	
7	<ul style="list-style-type: none"> 保育園の園児に向けた、「秋まつり」の招待状やビデオレターを作成する。(a) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 単元の課題 「あきのおきにいり」をつかって、ほいくえんのこたちと、たのしくあそぼう </div>		●	③
8	<ul style="list-style-type: none"> 集めた「秋のおきにいり」を使って、遊びに使う物を作ったり、どうやって遊んだりするかを考え、ワークシートにまとめる。(a)(b) 	②		②
9~11	<ul style="list-style-type: none"> 班に分かれ、園児が楽しく遊べる工夫をしながら、「秋まつり」のおもちゃを作成する。また、おもちゃの工夫の発表練習をする。(a)(c) 		②	●

12	・自分たちで作ったおもちゃの工夫や、もっと楽しめるようにするためのアドバイスなどを共有する。(a)(b)		②	
13,14	・前時の共有でもらったアドバイスを生かして、おもちゃを改良したり、実際に遊んだりして、改善した様子の写真や動画を記録して、発表の練習をする。(a)	③	③	
15 (本時)	・完成したおもちゃや遊びの写真や動画を電子黒板に写して、工夫や遊び方を共有し、おもちゃ作りの学習をワークシートにまとめる。(a)(b)	②	③	
16 17,18	・「秋まつり」の会場準備をしたり、当日の流れを確認したりする。 ・「秋まつり」で、園児におもちゃを紹介したり、一緒に遊んだりする。	③	③	③
19,20	・これまでのワークシートや、おもちゃ作りを想起し、秋の自然や園児と自分の関わりについて、振り返る。(a)(b)			③

*活用するコンテンツ等：(a) オクリンクプラス (b) 電子黒板 (c) デジタル教科書

II 本時の学習 (15/20)

1 ねらい 秋の自然を生かしたおもちゃの改善点について話し合い、おもちゃづくりのまとめを通して、園児のための「秋まつり」を見通して、予想したり、試したりして作ってきたおもちゃ作りや遊びを考えたことの楽しさに気付くことができる。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される児童の意識〔S〕	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 単元の課題や前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p>S：前回友達がアドバイスしてくれて作り直したおもちゃをみんなに見てもらいたいな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><めあて> なおしたおもちゃのくふうをはっぴょうして、おもちゃづくりのまとめをしよう。</p> </div>	<p>○本時の見通しを持つことができるように、単元の課題や「秋まつり」の計画などの学習の過程を電子黒板で掲示したり、前回の発表のホワイトボードを見返したりさせる。 【★一覧表示】</p> <p>○発表の際に何を見てもらい、実際に園児に何を伝えるのか意識できるように、作り直したおもちゃのどこを見たらうと、みんなに伝わると思いか問いかける。</p>
<p>2 班ごとに電子黒板を使って、おもちゃの改善点や遊び方を、写真や動画を使って発表する。(30分)</p> <p>【★撮影・録音・再生】</p> <p>S：前回のところと比べて、ここを改善しました。比べてみると、〇〇を変えたことで、楽しく遊べるようになりました。遊び方の動画を見てください。</p> <p>S：おもちゃの写真を見てください。前と比べて、この場所をかえました。遊び方は、この動画で見てください。</p> <p>S：前よりも長く遊べるようになっているな。とても楽しそうでいいな。</p>	<p>○前時と本時の発表の写真や、動画を比較しておもちゃの工夫が見つけやすくなるように、電子黒板2台にそれぞれを掲示して比較させる。 【★提示・配布】</p> <p>○班ごとのおもちゃの工夫を視覚的に理解できるように、見てほしいポイントや変わったポイントを書き込ませる。 【★書き込み】</p> <p>○友達の発表を聞いて意見を共有し、活発な話し合いができるように、座席の配置を工夫する。(下記環境の構成2を参照)</p> <p>○発表する側も聞く側も、相手意識をもって学習することができるように、「保育園の子たちが楽しめるおもちゃになっているかな」と問いかける。</p> <p>○おもちゃの工夫が伝わる話し方かどうかを考えながら聞くことができるように、「保育園の子になったつもりで聞こうね」と促す。</p>

3 本時の学習の振り返りをする。(10分)

【★思考の補助】

S: ただこまを回すよりも、戦う場所を作ったら面白くなったな。

S: マラカスを鳴らすだけじゃすぐに終わっちゃうけど、一緒に作るようにしたら楽しそうだな。

<振り返り>

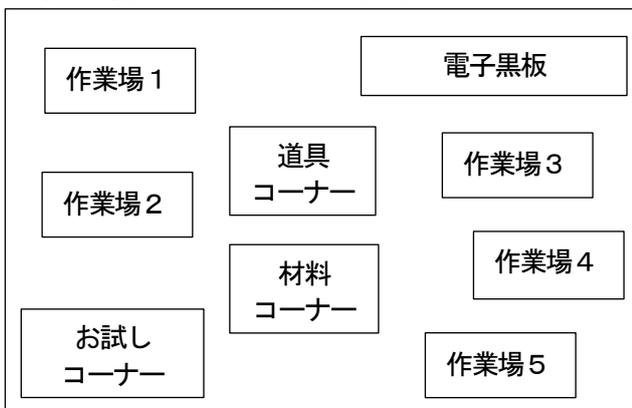
S: みんなからアドバイスをもらって作り直して、保育園の子たちが楽しく遊べるおもちゃが作れました。早く一緒に遊びたいです。動画で作ったから比べやすくてよかったです。

○どの班の発表も、「園児が楽しく遊べる」おもちゃや遊びになっていることに気付かせ、単元の課題とのつながりや今後の「秋まつり」の見通しをもてるように、それぞれの班の発表の共通点を考えさせて、見付けさせる。 【★掲示・配布】

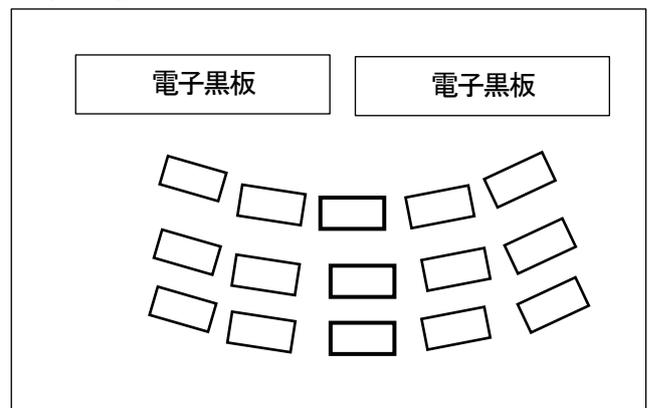
◆評価項目(知②)

児童の発表の様子から、「園児のために、秋の自然を使った遊びの楽しさや、遊びを工夫したり創り出したりすることの面白さに気付いているか」を評価する。

<環境の構成1 (9~11, 13, 14校時)>



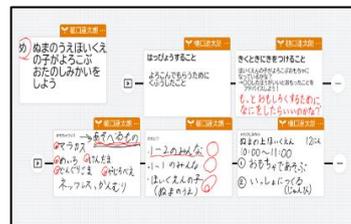
<環境の構成2 (12, 15校時)>



Ⅲ 実践事例の紹介

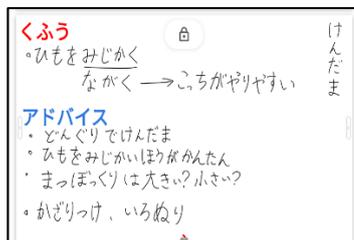
①オクリンクプラス「単元の計画カード」

単元のめあてや単位時間のめあて、児童と話し合って決めた次時にやることなどを残すためのカードを、みんなのボードで作成した。児童との話し合いの中で出た意見を残したり、児童にも渡すことができたりしたため、課題意識や相手意識をもって学習できた。



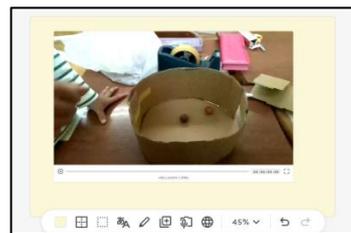
②電子黒板「ホワイトボード」

第12時の発表の学習で、おもちゃや遊びを作った班の工夫と、それを聞いて他の班がしたアドバイスをまとめた。発表と同時に見ることができたり、次時以降におもちゃを改善する時に見直したりすることができ、交流学习に向けて自分たちの考えを練り上げるための一助となった。



③オクリンクプラス「写真・動画」

各班で作成したおもちゃや遊んでいる様子を適宜撮影しておき、自分たちで見直して作り直す際に見返して考えられるようにした。



④デジタル教科書『おもちゃのつくりかた』の動画

おもちゃ作成の動画のページのリンクを児童に配布し、いつでも見られるようにした。動画を活用することで、自分のおもちゃを見直すことや、他の班のおもちゃのアドバイスを参照する際の参考資料となった。



Ⅳ 成果 (○) と課題 (●)

- オクリンクプラスで、秋探しからおもちゃづくり、交流会の記録などを1つにまとめた。それにより、単元を通した学びの流れが視覚的に理解しやすくなった。
- 園児とのやり取りをオンラインで行ったり、単元のめあてをICT機器で示したりしたことで、常に相手意識をもって学習に取り組むことができ、振り返りにも生かすことができた。
- 班で決めたおもちゃの工夫や改善ポイントなどをオクリンクプラスのカードにまとめさせたことで、教師からすぐに反応を送ることができて指導に生かすことができた。
- 1回目の発表(第12時)のアドバイスを、電子黒板のホワイトボードにまとめたことや、それをオクリンクプラスで個人や班で見返せるようにしたことで、自分たちでおもちゃや遊びを改善することに生かした。
- 発表や話し合いの際に動画で記録して、電子黒板2台にそれぞれ映して比較させたことで、「もっと見たい」「それは楽しそう」という、児童の主体的な意欲を喚起させることができた。
- デジタル教科書のコンテンツを使用することで、学習に必要な情報をいつでも児童が自分で見ることができたため、おもちゃづくりに生かすことができた。
- 電子黒板を2台使用したことで、おもちゃの画像や動画の比較をしながらそれぞれに書き込むことができたが、誰でもできる実践方法と考え、実現が難しいと感じた。
- 発達段階を踏まえて、活動中に使用する端末を1台に制限したことで、書き込んでいたり動画を撮影しているときはアドバイスを書いたカードや自分たちの工夫を書いたカードを見ることができなかった。そのため、活動に停滞が見られた。事前に何が必要か考えさせ、必要数のタブレットを与えて学習に取り組ませるとよかった。
- 発表の際にタブレットを持たせて、アドバイスや工夫を記したカードを見せたり、めあてを書き込ませたりしたが、注意力が散漫になり、発表に集中することができない児童も見られた。タブレットは発表の際にのみ使用することや、発表形態を変えるなど、実態に合った学習形態とICT機器の活用を考える必要があった。

国語科学習指導案

単元名「読みを深め合う」

教材名「初恋」〔学指要領：知（1）ウ、思A（1）ウ、エ〕

令和7年11月26日（水） 第5校時 図書室
桐生市立清流中学校 3年3組 28名 指導者 曾根 和樹

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。	・詩にはいくつかの種類があり、文体やまとまりなどの特徴に着目し、その種類を判別することは理解している。
思考力、判断力、表現力等	・場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 ・話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・自分の考えなどを素直に伝えられる生徒は多いが、わかりやすくするために根拠を用いるなどの工夫を凝らすことに課題のある生徒は多い。
学びに向かう力、人間性等	・詩を読み、考えたことを伝え合うことを通して、文章の種類と特徴について理解したり、自分の考えをわかりやすく伝えようとしたりする。	・自分の考えたことを伝えることは得意とする生徒が多いが、友達の考えから気づきを得て、自己の変容を見つめることに課題がある生徒もいる。

2 評価規準

知識・技能	①文章の種類とその特徴について理解を深めている。
思考・判断・表現	①読み取ったことに応じて語調を整えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。 ②CMを見て、構成や展開、声の出し方や機器の活用など、表現の仕方を評価することを通して、多様な考えを理解したり自分の考えを見直したりして、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	①詩を読み、考えたことを伝え合うことを通して、文章の種類と特徴について理解したり、表現したことの意図について説明しようとしたりしている。

3 指導及び評価、ICT活用の計画（全5時間：本時第5時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・作者と歴史的背景を理解し、単元の課題をつかむ。(a) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">単元の課題 作者の意図を読み取り、CMを作ろう</div>	①		
2	・詩の構成や表現方法について個人で考えた後、グループで共有する。		①	①
3	・詩を読んで感じ取ったことをCMでどのように表現するか考える。		②	
4	・CMを制作する。(b)		②	
5	・作ったCMを持ち寄り、友達の制作したCMを鑑賞する。(c)	①	②	①

*活用するコンテンツ等：(a) Youtube CM (b) Canva (c) オクリンクプラス

4 言語活動の価値

CMを作るという言語活動は、生徒のさまざまな力を育てられると考える。CMは短い時間でメッセージを伝える媒体であり、生徒は自分の考える詩の魅力を、限られた時間の中で考えをまとめ表現していく。自分の考えを一方向的に伝えるのではなく、CMの受け手側の気持ちを考える必要もある。また、他者の表現方法を学び、考えを広げることにもつながる活動である。

II 本時の学習 (5/5)

1 ねらい 友達が制作したCMを鑑賞することを通して、表現の仕方を評価し自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

2 展開

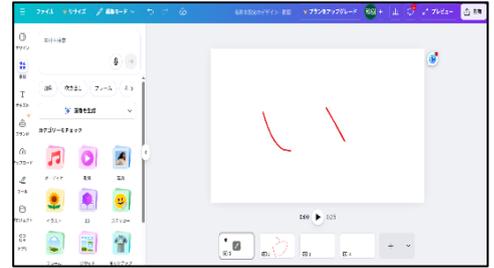
【★ICT活用に関する事項】

<p>主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕</p>	<p>○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><めあて> 友達が制作したCMを鑑賞し、自分の考えを広げたり深めたりしよう。</p> </div> <p>S：どんなCMがあるか楽しみだな。 S：早く自分の作ったものを見てほしい。</p>	<p>○生徒が友達のCMを見られるように、本時開始前までにオクリンクプラスで動画を見られるように掲示しておく。 【★掲示】 ○生徒が友達のCMを評価、詩の魅力について再考できるように、CMを見る際の観点を提示する。</p>
<p>2 グループに分かれ、友達が作ったCMを見て話し合う。(25分)</p> <p>S：自分の着目した連と同じだったけれど、映像の材料が違くと、受ける印象が違うな。 S：自分のものと違って、音読を聞いただけで島崎藤村のうれしさが伝わってくる。 S：「薄紅」の色って、自分の思い浮かんだ色と少し違うな。</p>	<p>○1グループ4人程度（想定6グループ）で構成し、違うグループのCMを見られるように準備しておく。 ○グループでタブレットを1台準備し、その1台でCMを視聴させる。 ○周りのグループが気にならないように、等間隔でグループを設置する。</p>
<p>3 グループで話し合ったことをもとに、個人で評価する。(10分)</p> <p>S：「君が情けに酌む」という言葉がいまいちよくわからなかったが、他の人の話を聞いて理解できた。 S：「こひしけれ」の部分を、あのように表現した理由を直接本人に聞きたい。 S：〇〇さんは否定的だったけれど、私は□□さんのCMは音読の仕方や、終わりの表現などから全編読んでみたいと思った。</p>	<p>○グループで話し合ったことをもとに、個人で見たCMについて評価させる。その際に、オクリンクプラスのコメントで、見たCMについて簡単な感想を記入させる。 【★共有】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆評価項目（思） オクリンクプラスのコメントの内容から、「観点到に沿った評価をしているか」を評価する。</p> </div> <p>○机間指導やコメントの内容から、根拠をもった説明ができている生徒を意図的に指名する。</p>
<p>4 良いCMが制作できた生徒を2名程選出し、前に出て説明してもらおう。(5分)</p> <p>S：「まだあげ初めし前髪」という部分について、前髪を上げ始める時期は洒落っ気づく中学生くらいかなと思って中学生を出しました。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆評価項目（思・態） 発表の内容から、「自分の考えをわかりやすく説明しているか」を評価する。</p> <p>◆評価項目（知・態） 発表の内容から、「文章の種類や特徴について理解しているか」を評価する。</p> </div> <p>○どのような内容が「わかりやすく説明する」ことなのか理解できるように、根拠や理由を上手に用いて説明した生徒を賞賛する。</p>
<p>4 本時のめあてを確認し、学習内容の振り返りをする。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><振り返り> S：文字だけの詩から気持ちを読み取って、その自分の考えを映像にするのは難しかった。〇〇さんの説明は、本文をもとにしていて納得できた。自分の説明も説得力のあるものにしていきたい。</p> </div>	<p>○自分のCMに対する評価を確認し、それも含めて振り返りを書く。</p>

Ⅲ 実践事例の紹介

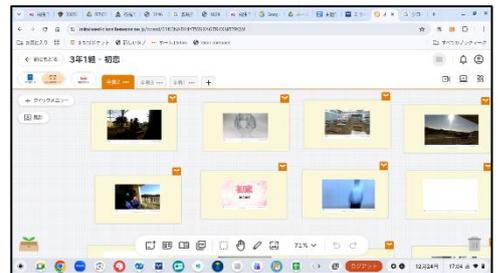
①Canva

本実践では、「詩の魅力を伝えるCMを制作する活動」において、デザインツール「Canva」を活用した。Canvaは無料で利用できる点が大きな利点である。テンプレートや素材が豊富で、動画編集や音声の取り込みも簡単な操作で行えるため、ICT操作に不慣れな生徒でも安心して活動に取り組むことができた。本活動では、詩を音読し、その音声を動画に組み込むことで、言葉のリズムや抑揚、感情の込め方を意識した表現が可能となった。視覚と音声を組み合わせた表現を通して、生徒の表現力や思考力の向上が見られた。Canvaは創造的な学びを支える有効な学習支援ソフトであるといえる。



②オクリンクプラス「学年作品集」

各クラスで制作したCM作品を学年全体で共有するために、「オクリンクプラス」を活用し、学年作品集を制作した。授業内では自クラスの作品を全員で鑑賞することはできたが、「他のクラスのCMも見たい」という生徒の声が多く聞かれたことを受け、学年全体での共有の場を設けた。オクリンクプラスを用いることで、作品の集約や配信を簡単に行うことができ、単元時間外ではあったが生徒は時間や場所を選ばずに他クラスの作品を鑑賞することが可能となった。これにより、表現方法の多様性に気づく機会が増えた。そして、ICTを活用した協働的な学びの充実を図ることができた。



Ⅳ 成果 (○) と課題 (●)

○CMを個人制作としたことで、表現方法や構成などを自ら選択する場面が多く生まれた。

○一人一台のタブレット端末を使用できることで、試行錯誤や修正を各自のペースで行うことができた。

○オクリンクプラスを用いたことで、学年全体で各々が制作したCMを共有・鑑賞することができ、詩の捉え方や表現方法の多様性に気付き、自身の考えを広げたり深めたりする姿が見られた。

○良い点や工夫点を伝え合う中で、表現の意図を尊重し合う態度が育まれ、生徒同士で学びを高め合う協働的な学びの実現につながった。

- 「詩から読み取ったことを表現する・鑑賞する」という国語科としての授業のねらいから結果的に離れてしまう生徒がいた。
- 鑑賞において映像や音声など技術面に評価が偏ってしまった。
- 鑑賞において第一印象での評価で終わってしまっている生徒がいた。
- 全員同じ詩で制作するのではなく、いくつかの選択肢の中から自分で好きな詩を選ぶ活動を入れられれば、より主体性をもって活動できたように感じた。
- 鑑賞者からCM制作者へ直接感想や意見をフィードバックする機会を十分に設けることができなかった。

電子黒板・書画カメラを活用した意見の共有 ～カメラロールを用いた意見共有・比較～

桐生市立境野小学校
教諭 樋口 連太郎

【事例 1】教科指導における電子黒板と書画カメラの併用

1 導入難易度 ★★☆☆☆ (2/5)

2 ねらい

児童が取り組んだ課題のデータやノートを電子黒板に映して、視覚的に共有させたり、比較させたりすることを通して、他者の意見を取り入れ自分の考えを深められるようにする。

3 準備 (使用する機能)

電子黒板 (カメラロール、オーバーレイ、ホワイトボード)、書画カメラ、タブレット端末

4 活用の仕方

(1) ノートの考えを共有・比較する使い方

意見を交流する場面において、ノートを書画カメラで撮影して、電子黒板のカメラロールに保存する。そして、図 1 のように複数の画像を電子黒板で映して、それぞれの考えについて書き込む。

(2) キャスト機能でタブレットの課題を比較する使い方

(1) と同様に、意見交流の場面において、タブレットに保存していた課題を、キャスト機能で映す。

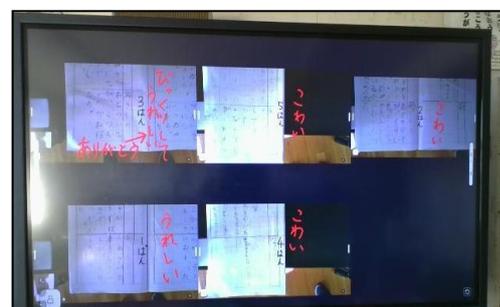


図 1 カメラロールで画像比較

5 成果 (○) と課題 (●)

- ノートに書いた意見も電子黒板に映して比較・共有ができるため、低学年でも使用する難易度が低く、一度にいくつもの資料を見たことで、共通点や相違点を見付けやすくなった。
- 従来のように、実物のホワイトボードに意見を書いてそれを黒板に貼ってから比較するという過程がなく、撮影したらすぐに比較することができるため時間を短縮することができた。
- 低学年の児童でも、自分の考えと比較してそれぞれの良さを考えたり、違いを受け入れたりして、考えを深めることができた。また、キャスト機能は、児童が主となって映すことができるため、他者の意見を取り入れ自分の考えを深めようとする手立てとして有効だった。
- 児童が並び替えをしたり、書き込みをしたりすることが難しい学年もあると考えられ、教師主導で進んでしまうことが懸念される。
- オーバーレイの仕様上、書き込みを行うと大きさを変えたり、並び替えたりができなくなる。

電子黒板・デジタル教科書を活用した学習のポートフォリオ化 ～ホワイトボード・スクリーンショットとデジタル教科書の併用～

桐生市立菱小学校

教諭 松田 仁

【事例2】算数科における、単元を通じた学習ポートフォリオ

1 導入難易度 ★★★☆☆ (3/5)

2 ねらい

めあてや計算過程、まとめをデジタル教科書のスクリーンショットとともにホワイトボード上で整理し、導入場面や終末場面で児童に提示することを通して、各単位時間のつながりを理解し単元をまとまりとして捉えられるようにする。

3 準備 (使用する機能)

タブレット端末 (デジタル教科書)、電子黒板 (ホワイトボード・スクリーンショット)

4 活用の仕方

問題の集団解決を行う場面において、電子黒板のホワイトボード機能とデジタル教科書のスクリーンショットを用いて、児童の考えなどを書き込む。また終末の場面においても、児童の言葉を紡いでまとめを書き込む。本時で作成したホワイトボードは、次時の導入で振り返りとして児童に示したり、習熟を図る時間にこれまでの振り返りとして活用したり、問題を解く際のヒントカードとして活用したりする。

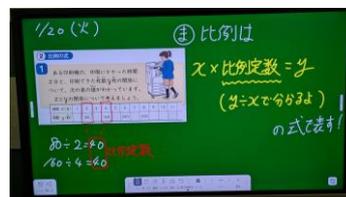


図1 第2時のホワイトボード

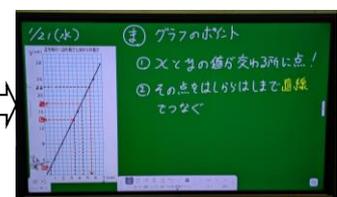


図2 第3時のホワイトボード

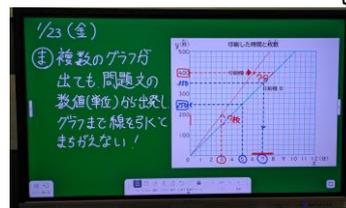


図3 第4時のホワイトボード

5 成果 (○) と課題 (●)

- 一単位時間の内容が一枚のホワイトボードにまとまることで、どのような学習をしたかが一目でわかるようになった。
- 本時の学習問題に取り組む際に、前時の学習を活用しようとする児童がだんだんと増えてきた。
- 前時の振り返りが短時間で行えるようになった。
- 関連する学習でも活用できるようになった。(例: 分数のかけ算→分数の割り算)
- 教科書の問題を扱うことが多くなり、児童の実態と多少のずれが生まれてしまった。
- 問題の種類によっては、ホワイトボード一枚で収めるのが難しかった。

電子黒板・デジタル教科書を活用した意見の共有と比較検討 ～スクリーンショット・カメラロールとデジタル教科書の併用～

桐生市立菱小学校
教諭 松田 仁

【事例3】国語科の読み物教材における意見の共有・比較検討

1 導入難易度 ★★★☆☆ (3/5)

2 ねらい

読み物教材における児童の考えを複数並べて表示し、共通点や相違点を見出すことを通して、自分の考えを見つめ直し、深い学びにつなげられるようにする。

3 準備（使用する機能）

タブレット端末（デジタル教科書）、電子黒板（スクリーンショット・カメラロール）

4 活用の仕方

児童の考えを共有し、比較検討したい場面において、デジタル教科書のスクリーンショットと電子黒板のカメラロール機能を用いて、画像を複数枚表示して行う。

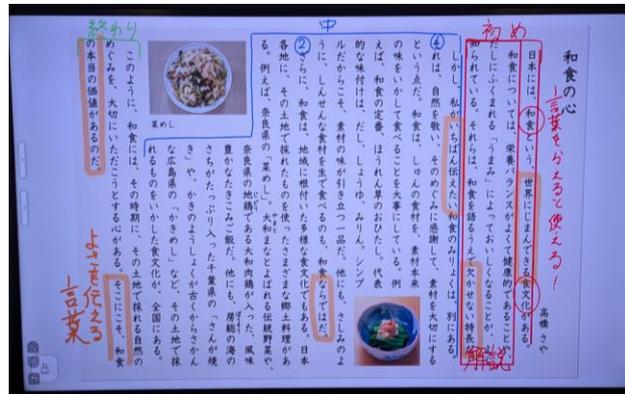


図1 児童が書き込んだデジタル教科書

5 成果 (○) と課題 (●)

- 児童の考えが複数枚表示されていることで、共通点や相違点を見出しやすくなった。
- 児童の考えにオーバーレイでさらに言葉や図を書き込むことで、比較検討の過程や結果を視覚的に捉えやすくなった。
- 電子黒板を活用することで、文字の色や太さなどを自由に変えられるため、大事な箇所を目立たせたり、関係している箇所同士を線でつないだりすることができ、児童が考えを伝えやすくなっていた。
- 電子黒板に映っている読み取りと、自身の読み取りとの比較もできるため、自己の学習を見つめ直すことができる。
- 紙の教科書に考えを書き込み、電子黒板上でも考えを書き込むなど、児童の作業が多くなってしまったため、活動の時間配分や指示に注意を払う必要がある。
- 作業が多くなる分、学習のねらいにスムーズに迫るため、電子黒板に書き込みに来る児童を意図的に指名したり、日頃から電子黒板に書き込む活動に慣れさせたりしておくなど、配慮が必要である。

電子黒板・タブレット端末を活用した外部との交流 ～Google Meet を活用した交流～

桐生市立清流中学校
教諭 曾根 和樹

【事例4】合唱コンクールに向けた他校との歌い合わせ

1 導入難易度 ★★☆☆☆ (2/5)

2 ねらい

同じ自由曲に取り組む他校の生徒同士が、互いの合唱を聴き合い、意見を交換することを通して、表現力や聴く力を高められるようにする。

3 準備（使用する機能）

電子黒板、タブレット端末（Google Meet）、外付けマイク

4 活用の仕方

遠隔地の学校や組織と交流を図りたい場面において、タブレット端末に入っているアプリ「Google Meet」を使用する。

5 成果（○）と課題（●）

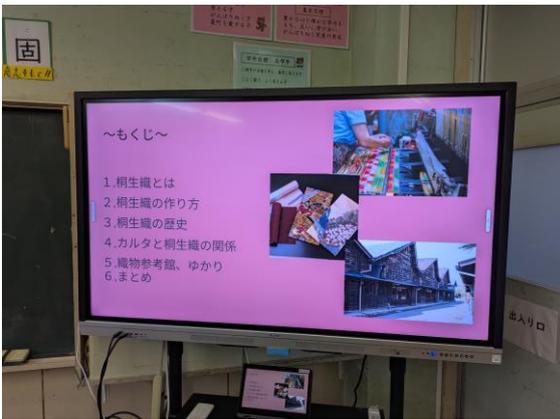
- 他校との歌い合わせは、生徒にとって新鮮であり、歌い合わせに向けてモチベーション高く活動することができた。
- 「自分たちの合唱曲と同じ曲を聴く」ことは自校内の歌い合わせでは得られないが、他校との歌い合わせではそれを実現することができる。合唱後の意見交流の場では、他校の合唱に対して的確にアドバイスをすることができ、また自分たちも、いつもより具体的なアドバイスを得ることができ、互いに自分たちの合唱に活かすことができた。
- 歌い合わせ後に、もらった感想やアドバイスについてパートごとに話している場面を見ることができた。
- 今回のように遠隔地の人とコミュニケーションを取りながら学習を進めていく経験は、生徒の今後の様々な活動につながる可能性を感じた。
- セキュリティの関係上、他郡市とは簡単に交流できない。
- 現状のネットワーク環境では、オンラインで「合唱」を鮮明に伝えることは難しい。
- 現状の技術では「その場で合唱する、聴く」ことに重点を置くのか、「録画してあるものを聴いて、意見交流する」ことに重点を置くのか、目的をしっかりと据えて行う必要がある。



清流中学校 他校との歌い合わせの様子

6 様々な成長段階による活用例

生徒や児童の成長段階や、地域の特色によって、交流を図ることができる相手は様々である。中学校での合唱コンクール以外に、本班員の所属校で行った外部との交流実践事例を紹介する。



菱小学校
他県の姉妹校との
学習交流会の様子



境野小学校
近隣の保育園との
学習交流会の様子

教育相談の部

教育相談の部

1 教育相談研究

教育相談研究員は、年間30日、本年度は水曜日の午後3時から5時までの2時間、文献研究や事例研究、各種の実践を行い相談技術の向上を目指した。また、教育相談研修講座における講師として指導助言にあたった。

(1) 教育相談研究員一覧（計3名）

星野 秀美(相生小)	關 百合香(境野小)	荻野 悦子(川内中)
------------	------------	------------

2 教育相談研修（初級研修、中・上級研修）

教育相談初級研修員は、年間9日、計15の講義や実習を受講し、教育相談に関する基礎的な知識や技能の習得及び実際の事例研究を行い、生徒指導上の問題傾向をもつ児童生徒等に適切に対応できる教職員の資質向上を目指した。所定の研修修了後は、群馬県教育研究所連盟が主催する教育相談技術認定初級の資格申請を行った。

また、教育相談中・上級研修員は実習を受講し、教育相談に関する専門的な知識や技能の向上及び実際の事例研究を行った。

(1) 教育相談研修員一覧（合計25名）

<初級研修員（24名）>

関口 陽弓 (南 小)	津久井幸代 (南 小)	佐藤 香 (北 小)
高橋 貴大 (境野小)	岩崎安里寿 (境野小)	森田 烈 (境野小)
茂木 満夢 (広沢小)	久保由美子 (広沢小)	吉本 圭希 (相生小)
藤井 萌花 (川内小)	鈴木 佳奈 (桜木小)	新井 健也 (桜木小)
舘岡 信枝 (菱 小)	曾根 雪月 (新中小)	小林 慶 (新中小)
吉田萌之歌 (新東小)	平田菜々子 (中央中)	矢島 瑠己 (清流中)
鈴木 麻耶 (境野中)	萩原 敦 (川内中)	山田 龍馬 (川内中)
柴田 高希 (桜木中)	荒井 晏 (新里中)	太田 哲央 (桐一高)

<中級研修員（1名）>

金井 美季 (東小)

(2) 教育相談研修講座実施日・内容・講師一覧

<初級研修>

令和7年度 教育相談研修講座 初級研修 実施計画

桐生市立教育研究所

	期日	時間	研修内容	形態	単位	講師
①	5月14日(水)	15:00～15:30	開講式・オリエンテーション	/	/	研究所担当指導主事
		15:30～17:00	事例研究の考え方・進め方	講義	1	相生小学校 星野 秀美 教諭
②	5月21日(水)	15:00～16:00	生徒指導・教育相談概論	講義	1	相生小学校 星野 秀美 教諭
		16:00～17:00	児童生徒理解	講義	1	菱小学校 新海 喜美子 教諭
③	6月4日(水)	15:00～16:00	学級・HR経営の充実	講義	1	川内中学校 荻野 悦子 教諭
		16:00～17:00	カウンセリングの考え方・進め方	講義	1	
④	6月18日(水)	15:00～16:00	いじめの理解と対応	講義	1	桜木小学校 柴崎 妙子 教諭
		16:00～17:00	不登校の理解と対応	講義	1	桐生市教育委員会 木村 友和 指導主事
⑤	7月22日(火)	9:00～10:00	問題行動の理解と援助・指導	講義	1	菱小学校 新海 喜美子 教諭
		10:00～12:00	グループ・アプローチ	実習	1	桜木小学校 柴崎 妙子 教諭
⑥	7月31日(木)	9:30～11:30	カウンセリング〈基礎〉	実習	1	教育研究所 篠原 孝之 教育相談員
		13:00～15:00	カウンセリング〈発展〉	実習	1	
		15:00～16:30	事例研究(1)	実習		
⑦	9月10日(水)	15:00～17:00	事例研究(2)	実習	*(1)	境野小学校 關 百合香 教諭 桜木小学校 柴崎 妙子 教諭 菱小学校 新海 喜美子 教諭 梅田中学校 茂木亜希子 教諭 川内中学校 荻野 悦子 教諭 教育研究所 篠原 孝之 教育相談員
⑧	10月1日(水)	15:00～17:00	事例研究(3)	実習		
⑨	10月22日(水)	15:00～17:00	事例研究(4)	実習		
			申請手続きについて	/		/

○資格申請にあたり、上記の研修を全て受講する。

○上記研修計画は、群教連のH24実施要項「講義は1時間を1単位時間、実習は2時間を1単位時間。」「講義及び実習は、1単位時間以上であること。ただし、カウンセリングⅠは2単位時間以上、カウンセリングⅡは1単位時間以上とする。」に基づく。

*事例研究は、(1)(2)(3)(4)のうち2受講で、1単位の認定となる。

<中・上級研修>

令和7年度 教育相談研修講座 中・上級研修 実施計画

桐生市立教育研究所

	期日	時間	研修内容	形態	単位	講師
①	5月14日(水)	15:00～15:30	開講式・オリエンテーション			研究所担当指導主事 境野小学校 關 百合香 教諭 相生小学校 星野 秀美 教諭
②	9月 3日(水)	15:00～17:00	事例研究(1)	実習		境野小学校 關 百合香 教諭 相生小学校 星野 秀美 教諭
③	10月 8日(水)	15:00～17:00	事例研究(2)	実習		境野小学校 關 百合香 教諭 相生小学校 星野 秀美 教諭
④	11月 5日(水)	15:00～17:00	事例研究(3)	実習		境野小学校 關 百合香 教諭 相生小学校 星野 秀美 教諭
			申請手続きについて			研究所担当指導主事

3 教育相談事業統計

通所・来所・訪問・電話相談状況等の概要(月別)

令和8年2月28日現在

(1) 教育支援センターの状況

開設日			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
教育支援センター関係	児童生徒	登録者	総数	6	9	10	12	12	14	16	16	18	20	21		183	
			継続	0	6	9	10	12	12	14	16	16	18	20			
			再	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		6	
			新規	0	3	1	2	0	2	2	0	2	2	1		15	
			小学生	2	4	4	4	4	4	5	5	6	7	7			
			中学生	4	5	6	8	8	10	11	11	12	13	14			
			復帰・退所	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		10	
	保護者	対象者	総数	5	8	9	11	11	13	15	15	17	19	20			
			継続	0	5	8	9	11	11	13	15	15	17	19			
			再	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
			新規	0	3	1	2	0	2	2	0	2	2	1		15	
			談当月相	総数	5	16	13	24	2	21	18	15	19	5	17		155
			継続	5	12	10	24	2	20	14	15	17	3	14		136	
			新規	0	4	3	0	0	1	4	0	2	2	3		19	

(2) 来所相談の状況(通所生・通所生保護者を除く)

来所相談件数	保護者	相談員	総数	5	14	3	2		8	3	6		2	3		46	
			継続			7	1			2	2						12
			新規	5	7	2	2		6	1	6		2	3		34	
		S	総数	1	4	3		1	7		1		2	3		22	
			継続			1		1	1		1			2		6	
			新規	1	4	2			6				2	1		16	
	児童生徒	相談員	総数	1	4	2	2		7	5	12	3	1	2		39	
			継続						4	4	6	3				17	
			新規	1	4	2	2		3	1	6		1	2		22	
		S	総数	1	1	1		1						2		6	
			継続					1								1	
			新規	1	1	1								2		5	
	教職員等	相談員	総数		5		13		7			16		10		51	
			継続				2		1			11		7		21	
新規				5		11		6			5		3		30		
S		総数		2	1		2	1		1					7		
		継続		1	1		1	1		1					5		
		新規		1			1								2		

(3) 訪問相談の状況

訪問相談件数	保護者	相談員	総数													
			幼稚園													
			小学校													
		S	総数													
			小学校													
			中学校													
	児童生徒	相談員	総数									1	1		2	
			幼稚園													
			小学校													
		S	総数									1	1		2	
			小学校													
			中学校									1	1		2	
	教職員等	相談員	総数		2	10			19			2			33	
			幼稚園		2				2			2			6	
小学校								17						17		
S		総数			10									10		
		小学校														
		中学校														

(4) 電話相談の状況

電話相談件数	保護者	相談員	総数		2		2	3	3	4	1		1		16
			幼稚園												
			小学校		1		1		2	3					7
			中学校		1		1	3	1						6
			高等学校							1	1			1	
	児童生徒	相談員	総数												
			幼稚園												
			小学校												
			中学校												
			高等学校												
	教職員等	相談員	総数			1									1
			幼稚園												
			小学校												
			中学校				1								1

	幼稚園	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小不定	中1	中2	中3	中不定	高校	不定	合計
いじめ総数			2												2
通所生保護者															
来所者			1												1
訪問															
電話			1												1
不登校総数			1	83	10	5	24		15	54	9				201
通所生保護者				75	6	1	16		9	43	3				153
来所者				7	4	4	8		5	10	5				43
訪問															
電話			1	1					1	1	1				5
登校しぶり総数						4				2					6
通所生保護者															
来所者						4				2					6
訪問															
電話															
性格・行動上の問題総数						1				1					2
通所生保護者						1				1					2
来所者															
訪問															
電話															
身体・健康上の問題総数															
通所生保護者															
来所者															
訪問															
電話															
非行傾向・非行総数															
通所生保護者															
来所者															
訪問															
電話															
友人関係総数									1						1
通所生保護者															
来所者									1						1
訪問															
電話															
学業学習・進路総数						1	10		1	2			3		17
通所生保護者							1								1
来所者							9		1	2					12
訪問															
電話						1							3		4
養育子育て総数				2						1		3			6
通所生保護者															
来所者				2						1					3
訪問															
電話												3			3
その他総数			1			1	2								4
通所生保護者															
来所者							1								1
訪問															
電話			1			1	1								3
通所生保護者合計				75	6	2	17		9	44	3				156
来所者合計			1	9	4	8	18		7	15	5				67
訪問合計															
電話合計			3	1		2	1		1	1	1	3	3		16

お わ り に

幼稚園や学校は、社会と切り離された存在ではなく、社会の中にあります。グローバル化や急速な情報化、技術革新など、社会の変化を見据えて、子供たちが未来の社会の創り手となるために必要な資質・能力を育くむための「社会に開かれた教育課程」の実現や「主体的・対話的で深い学び」の視点からのICTの有効活用も含めた授業改善を図ることが求められています。

本研究所では、これらのことを踏まえるとともに「桐生市教育委員会 教育行政方針」に示された重点施策及び喫緊の課題等も鑑み3つの課題研究班を組織し、それぞれが実践的な研究に取り組んでまいりました。

また、教職員の教育相談に係る資質向上も重要な課題であるにとらえ、教育相談研究員3名を委嘱し、指導者・リーダーの育成を目指してまいりました。

まずは、課題研究員・相談研究員の先生方、通常の校務に従事しながら、大変ご多用な中での1年間の努力に対して心より敬意を表します。

この「研究報告集第123号」には、各研究班・研究員の熱意が伝わる取組とその成果を収録することができ、何れも本市喫緊の教育課題解決を目指した実践的な研究になったと考えます。

これらの研究成果を、各学校の授業改善や学級経営・生徒指導・教育相談等の更なる充実のために活用していただければ幸いです。

終わりに、研究・研修の推進にあたり、指導助言をいただいた先生方、研究員を支えていただいた各園・各学校の園長・校長先生をはじめとする職員の皆様に心より感謝申し上げますとともに、県内各教育機関の皆様には、御高覧の上、御指導いただけますようお願い申し上げます。

令和8年3月

桐生市立教育研究所

副所長 新保 和孝